

静岡市夜間景観整備計画(案)

令和5年●月

I 共通事項

目 次

1 計画の目的と背景.....	3
i) 目的.....	3
ii) 背景.....	4
2 計画の内容.....	9
i) 取組の方向性.....	9
ii) 計画に定める事項.....	10
iii) 計画の位置づけ.....	10
3 対象エリア	11
4 計画期間.....	13
5 成果目標(KGI)	13
6 夜間景観整備のデザインコンセプト.....	14
i) 夜間景観照明の基本的な考え方	14
ii) 夜間景観整備のデザインコンセプト	15
7 エリアごとの整備計画の構成	17

静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

1 計画の目的と背景

i) 目的

本市には、富士山の眺望地点として多くの観光客を引き寄せる「名勝・日本平」や、徳川家康公が将軍職を退いた後に大御所として実権を握った駿府城跡の「駿府城公園」など、本市に特有の歴史的・文化的価値を有する魅力的な地域資源・観光資源が存在しています。

さらに、これら、既存の観光資源・地域資源を有する観光地やその周辺では、今後、本市のまちづくりの方針に則った公共整備や、市場環境の変化を捉えた民間投資等が予定されており、一層の魅力向上や集客力の強化等が図られているところです。

一方、本市では、「宿泊客数の増加」という観光振興上の課題解決を図るための取組として、夜間帯の観光(ナイトツーリズム)の振興に取り組んでおり、“夜も観光を楽しめるまち”として観光客に認知されるためには、内外のブランディングや夜間帯の観光コンテンツ増強に向けた取組が欠かせません。

本計画は、既存の地域資源の魅力を効果的に活用した夜間景観整備(照明整備等により夜間景観を魅力的なものに磨き上げる整備のことをいう。)を進め、本市を訪れる観光客の滞在時間延長や宿泊促進に繋げるとともに、市民や市内事業者の機運醸成に繋げ、内外のブランディングと夜間帯の観光コンテンツ増強を図ることを目的として、本市における夜間景観整備とその活用の方向性及び内容等について定めるものです。

これらの取組を通じ、実行力を持って夜間帯の観光振興を進め、一層の観光誘客や地域経済活性化の実現を目指していきます。



静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

ii) 背景

現状・課題

«宿泊客数の割合»

本市は、県内の他都市と比べ、観光交流客数(いわゆる観光入込客数)に占める宿泊客数の割合が低く、「日帰り型・通過型」の観光地としての実態を有しています。

日帰り旅行での立ち寄りと宿泊旅行での滞在では、旅行者の旅行消費単価や期待される域内での経済波及効果に大きな差があり、今後、本市が解決を図るべき観光上の課題として、「宿泊客数の増加」という課題は、非常に重要なものとなっています。

【観光交流客数に占める宿泊客数の割合】

令和元年度

(千人)

都市名	①延べ宿泊者 数(人泊)	②観光レクリエー ション客数	観光交流客数 (①+②)	観光交流客数に 占める宿泊者数の割合
熱海市	3,002	3,875	6,877	43.7%
伊東市	2,712	8,162	10,874	24.9%
浜松市	2,353	17,087	19,440	12.1%
静岡市	2,005	21,626	23,631	8.5%
御殿場市	1,012	12,090	13,102	7.7%
函館市	3,098	2,270	5,368	57.7%
札幌市	8,640	6,624	15,264	56.6%
長崎市	2,705	4,212	6,917	39.1%
神戸市	4,770	17,420	22,190	21.5%
横浜市	5,670	30,670	36,340	15.6%
名古屋市	7,120	42,870	49,990	14.2%
長野市	1,568	10,382	11,950	13.1%

県内都市:静岡県調査「観光交流の動向(令和元年度)」より 県外都市:各市公開の統計データより

※₁ 観光レクリエーション客数 … 観光施設(地点)、行祭事及びイベント等への入込客数の合計値

※₂ 都道府県により統計手法が異なる可能性があるため、県外都市については参考値

【静岡県への旅行客の1人当たり消費支出額】

令和元年度

(円)

費用	日帰り客 (県内客)	日帰り客 (県外客)	宿泊客 (県内客)	宿泊客 (県外客)
消費支出総額	3,498	9,060	22,195	31,520
内 訳	交通費	682	2,981	2,536
	宿泊費	—	—	11,451
	飲食費	903	1,714	3,425
	土産品・買い物代	1,505	3,893	3,462
	入場料・施設利用料	332	407	1,091
	その他	76	64	231

静岡県調査「静岡県における観光の流動実態と満足度調査(令和元年度)」より

静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

«アクセス環境»

本市は、東海道新幹線・東名高速道路・新東名高速道路の大動脈上に位置し、首都圏や中京圏からのアクセスが非常に優れた地勢にあります。

また、本市を訪れる観光客のメイン層は、静岡県内、関東地方及び中部地方(静岡県を除く)であり、更に、本市を訪れる観光客の多くは、自家用車などの車を利用していることが推測されます。

魅力的な夜間景観を活用した観光施策の検討・実施にあたっては、こうした観光客の属性に応じて、適切な商品化を検討する必要があります。

【旅行者の居住地】

(%)

静岡県	50.9
北海道	0.4
東北	0.7
関東	20.5
中部	19.8
近畿	5.8
中国・四国	0.9
九州・沖縄	0.7
海外	0.3

静岡県調査「静岡県における観光の流動実態と満足度調査(令和元年度)」より

※メイン訪問地域が「静岡県中部地域」である旅行者の回答を抽出

【旅行者の利用交通手段】

(%)

JR 新幹線	9.8
JR 在来線	8.2
私鉄・地下鉄	2.2
貸切バス・観光バス	7.3
高速バス	0.9
市内バス	7.0
市内電車	0.2
タクシー・ハイヤー	1.1
レンタカー	1.6
自家用車、社用・公用車	73.9
フェリー	0.3
飛行機(静岡空港)	0.5
飛行機(その他空港)	0.4
その他	4.7
自転車	1.9

静岡県調査「静岡県における観光の流動実態と満足度調査(令和元年度)」より

※メイン訪問地域が「静岡県中部地域」である旅行者の回答を抽出

静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

«市内観光地の滞在状況»

市内宿泊客数が少ない要因の一つとして、市内観光地の滞在時間が短いことが考えられます。

民間の観光系口コミサイトへの観光客の投稿内容から分析すると、市内の主要観光地点での平均滞在時間は、いずれも比較的短時間に留まっていることが読み取れます。

一方で、観光客による投稿数自体は、県内の他の観光スポットと比べて少ないわけではなく、観光地として観光客を惹きつける魅力・ポテンシャルそのものは決して低くないと考えられます。

市町村	観光素材	合算口コミ数	平均滞在時間
御殿場市	御殿場プレミアムアウトレット	21,293	2~3 時間、3 時間以上
三島市	三島スカイウォーク	15,009	1~2 時間
富士宮市	富士山	10,321	1~2 時間
富士宮市	白糸の滝	10,071	1 時間未満
熱海市	来宮神社	8,507	1 時間未満
三島市	三嶋大社	7,692	1 時間未満
静岡市	三保松原	6,645	1 時間未満
富士宮市	富士山本宮浅間大社	6,518	1 時間未満
伊東市	伊豆シャボテン公園	6,427	2~3 時間、3 時間以上
掛川市	掛川花鳥園	6,183	2 時間
伊豆市	淨蓮の滝	5,799	1 時間未満
静岡市	久能山東照宮	5,256	1~2 時間
伊豆の国市	韭崎反射炉	4,750	1 時間未満
伊東市	城ヶ崎海岸	4,334	1~2 時間
静岡市	駿府城公園	4,288	1 時間未満~、1~2 時間
静岡市	日本平	4,229	1 時間未満、1~2 時間
熱海市	MOA 美術館	3,944	1~2 時間、2~3 時間
浜松市	はままつフラワーパーク	3,623	1~2 時間
浜松市	竜ヶ岩洞	3,541	1~2 時間
富士宮市	富士山世界遺産センター	3,322	1~2 時間
伊豆市	竹林の小径	3,061	1 時間未満
河津町	河津桜	2,828	1~2 時間
掛川市	掛川城	2,821	1~2 時間
島田市	蓬萊橋	2,351	1 時間未満
伊豆市	修善寺 虹の郷	2,343	1~2 時間、2~3 時間、3 時間以上
伊東市	大室山	1,701	1~2 時間
静岡市	薩埵峠	1,451	1 時間未満
島田市	ふじのぐに茶の都ミュージアム	1,332	1 時間未満、1~2 時間
川根本町	夢の吊り橋(寸又峡)	1,201	1~2 時間
河津町	河津七滝	1,137	1~2 時間
浜松市	かんざんじロープウェイ	908	1 時間未満

「Google map」「トリップアドバイザー」「じゃらんネット」(2022 年 3 月現在)より

※同一名称等を含むものでも代表地点のみ参照

静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

«総括»

本市の観光上の現状や課題を整理すると、以下の通りとなります。

- ① 観光交流客数は県内屈指であるが、主に日帰り・通過型の観光地になっている。
- ② 交通の大動脈上であり、首都圏や中京圏からのアクセスは良好。主な交通手段は自家用車であり、夜間の交通手段には比較的困らない客層がメインと想定される。
- ③ 日帰り観光の比率が高くなっている要因として、市内の観光地の滞在時間が短く、市内に宿泊滞在する誘因として機能しきれていないことが考えられる。

こうした本市の観光上の課題や現状を踏まえ、本市を訪れる観光客の滞在時間を延長し、宿泊需要の創出に繋げ経済波及効果の創出を図るため、本計画に定める、魅力的な夜間景観の整備と、それを活用した夜間帯の観光振興事業を進めていきます。

静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

これまでの取組

平成28年度、日本平から望む夜景が“日本夜景遺産”に認定されたことを受け、日本平山頂事業者が構成する「日本平観光協会」やその構成員による、日本平の夜景を核とした観光誘客の取組が開始するほか、地元有志による夜型マルシェ「日本平夜市」といったイベントが開催されるなど、日本平の夜景を核とした夜間帯の観光振興に向け、民間を中心とした機運が高まりつつありました。

こうした動きに呼応し、令和元年度、本市と日本平観光協会が共同で、全国の夜景観光地から行政、民間事業者等が一堂に参加する全国大会「夜景サミット」を誘致し、日本平の夜景、本市の夜景を全国に対して発信するとともに、夜間帯の観光振興の本格化に向け、市内事業者の更なる機運醸成・共通認識の醸成を図りました。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックによる影響を受け市内観光業界は大きな打撃を受けていますが、コロナ禍からの回復やポストコロナに向けた基盤強化に向けて、宿泊客数の増加を目指す本取組の重要度は更に増しており、民間イベントと連携した日本平山頂での賑わいづくりの取組のほか、夜景を活用した観光情報の発信・ブランディング強化に向けたWebサイト「静岡の夜景」立上げなど、コロナ禍からの反転攻勢に向けた準備期間としての取組を進めてきたところです。

今後、全国的な観光誘客やインバウンドの往来再開に向け、実際に観光客を迎える、夜間帯の観光体験を提供するための夜間帯の観光コンテンツの集積に向けた取組が必要となっています。

【日本平山頂事業者によるPR事例】



【夜景サミット2019in 静岡】



【日本平夜市】



【静岡市夜景観光 Web ページ】



静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

2 計画の内容

i) 取組の方向性

夜景を楽しむ都市としての現状

本市には、現在、「日本平」「梶原山公園」「エスパルスドリームプラザ観覧車・ドリームスカイ」の3か所の“日本夜景遺産”に認定された夜景スポットがあります。

中でも「日本平」については、本市で初めて日本夜景遺産に認定された夜景スポットであるとともに、その素晴らしい景観・文化上の価値により、名勝としての指定も受けており、日中に多くの観光客を引き寄せる代表的な観光地もあります。

一方、いわゆる夜景を活用した観光が有名な都市は全国に存在しますが、そうした都市と比べると、本市の夜景観賞により観光を楽しむ都市としての認知は、まだまだ途上であるといえます。

【民間口コミサイトによる代表的な夜景スポットでの投稿内容の比較】

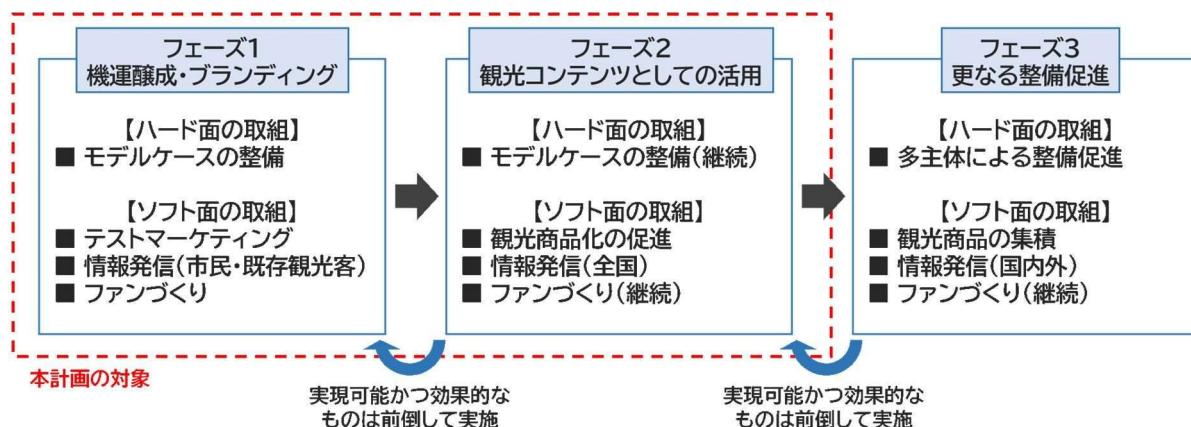
夜景スポット	口コミ投稿数	うち、「夜景」関係
日本平(静岡市)	3,048	43(約1.4%)
稻佐山山頂展望台(長崎市)	6,771	1,309(約19.3%)
藻岩山(札幌市)	826	192(約23.2%)
皿倉山展望台(北九州市)	1,520	249(約16.4%)

「Google map」より

取組のフェーズ

今後、本市が魅力的な夜間景観を活用した観光振興を本格化していくためには、まずは、地域内の市民や事業者の機運醸成や既に本市を訪れている観光客に対するブランディングを進め、その後、夜間景観を観光コンテンツとして本格的に活用していくことで、更なる誘客や地域経済活性化につなげ、地域内の多主体による一層の整備促進につなげていくという、好循環を創出していく必要があります。

こうした取組のフェーズ感を、以下の通り整理します。



静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

ii) 計画に定める事項

本計画では、本市が“夜も観光を楽しめるまち”として観光客に認知されている状態に向けて、市民や事業者の機運醸成や観光客に対するブランディングを効果的に進めていくための以下の事項を定めます。

① モデルケースとなる魅力的な夜間景観整備の内容

夜間景観整備のモデルケースとして、市民が誇りに感じ、観光客を惹きつけるような照明整備の内容を定める。

② 魅力的な夜間景観を活用したソフト施策の考え方

魅力的な夜間景観を活用した観光コンテンツ化の取組方針を整理する。

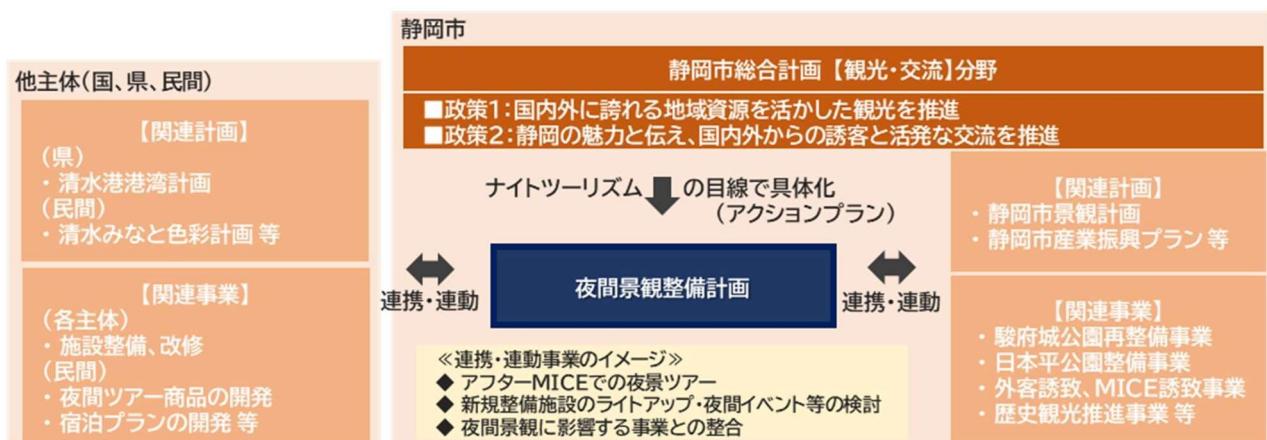
③ 遠景(日本平)夜景の整備に向けた考え方

市民や事業者の機運醸成の状況に応じて整備を促すため、遠景の夜景磨き上げに寄与する照明整備の考え方を整理する

iii) 計画の位置づけ

本市が定めるまちづくりの構想や上位計画等に則る事業の実施計画として、本計画の位置づけを以下の通り整理します。

なお、具体的な整備計画を定める対象エリアごとに、別途、詳細な整理を行います。



静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

3 対象エリア

魅力的な夜間景観のモデルケース整備を検討するエリアとして、上位計画、関連計画上の位置づけや、観光面での集客力、関連事業の予定等を踏まえ、「日本平・清水エリア」「駿府城公園エリア」の2エリアを設定し、それぞれのエリアにおける夜間景観整備の位置づけを以下の通り整理します。

なお、本エリア設定は、あくまで本計画に基づくモデルケース整備の検討対象として設定するものであり、他の事業や計画に基づく、夜間景観整備に資する施設整備・照明整備等を妨げるものではありません。

また、観光施策上、夜間の滞在環境や観光コンテンツの集積が図られることは望ましいことであるため、本計画に基づかない、他の整備事業等がある際には、ソフト施策等において、積極的な連携を図ることとします。

対象エリア	駿府城公園エリア		
範囲	・駿府城公園(周辺部を含む)		
主な 関連計画等	グランドデザイン	・美歴史のまちづくりグランドデザイン ・方針1:歴史を感じる … 駿府城公園周辺のライトアップ (リーディングプロジェクト) ・方針2:「おまち」のファンになる … ナイトツーリズムの推進	
	静岡市景観計画	・静岡駅周辺ゾーン:都市景観促進地区 ・駿府城公園周辺地区:重点地区	
	指定・認定	・周知の埋蔵文化財包蔵地(文化財保護法) ・風致地区(都市計画法) ・日本100名城	
観光面の特長		・中心市街地に位置し、来訪者による域内消費が期待しやすい ・公園内では大規模イベントも実施され内外から多くの来訪者がある ・歴史博物館のオープンを機に、歴史観光による一層の誘客が期待される ・駿府城公園の再整備が進行中であり、更なる受入環境向上が見込まれる ・民間事業者が参画した観光コンテンツの集積が進みつつある	

«本計画に基づく整備事業の位置づけ:駿府城公園エリア»

- 中心市街地に位置しアクセス良好。今後、更なるコンテンツの集積も予定されていることから、多くの観光客を惹きつけるスポット。
- 市が所管する都市公園であり、夜間景観整備にあたっての調整事項が比較的少ない。
- 数年内に行政主導の整備事業が複数予定されているため、観光誘客の機を逃さず、連携して早期に事業を実施することで、夜間景観整備の機運醸成に向けた効果を効果的に創出することが期待される。

→ 本計画の先行部分として、計画期間の早期にモデルケースの創出を行う。

整備にあたっては、実際に市民や観光客の目に触れる機会を増やし、効果を最大化するため、周辺事業との足並みを揃え、必要に応じて前倒し等を検討しながら、効果的なタイミングで順次整備を進めていく。

静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

対象エリア	日本平・清水エリア	
範囲	・日本平山頂から望む、富士山を背景とした清水側のエリア ・日本平公園(視点場)	
主な 関連計画等	グランドデザイン	清水みなとまちづくりグランドデザイン ・視点2:海洋交流(観光) … 景観整備:富士山眺望、水景、夜景
	静岡市景観計画	・清水駅周辺ゾーン:都市景観促進地区 ・日の出地区、三保半島地区:重点地区 ・日本平:眺望地点(構造物、夜景)
	指定・認定	・日本平:名勝(文化財保護法) ・富士山:世界文化遺産 ・清水港:日本三大美港 ・日本平、観覧車ドリームスカイ:日本夜景遺産
観光面の特長	・日本平は年間約200万人(令和元年度)が訪れる本市有数の観光スポット ・本市を代表する夜景観賞地でもある ・日本平公園の整備が進行中であり、更なる受入環境向上が見込まれる ・清水港周辺の開発が予定されており、更なる集客力向上が見込まれる	

«本計画に基づく整備事業の位置づけ:日本平・清水エリア»

- 本市を代表する夜景の眺望地点であるとともに、本市有数の観光スポットでもある。
 - 一方、日本平の夜景を構成する要素は非常に多岐渡るため、夜景そのものを磨き上げていくためには、非常に長期間かつ多様な主体が参画した継続的な整備が必要となる。
 - 日本平夜景の魅力を活用した観光誘客や内外に対するブランディング等を進め、夜間の誘客効果を創出しながら、市民や事業者の機運醸成が進んだ際の、夜景の磨き上げ手法等を検討していく。
- 本市における夜間帯の観光振興の“核”となるコンテンツとして、視点場である日本平山頂の夜間の観光客の滞在環境向上のための整備の検討を進める。
 市民や事業者の機運醸成、観光客に対するブランディングを進め、将来に渡っての継続整備に繋げていく。

静岡市夜間景観整備計画(案)

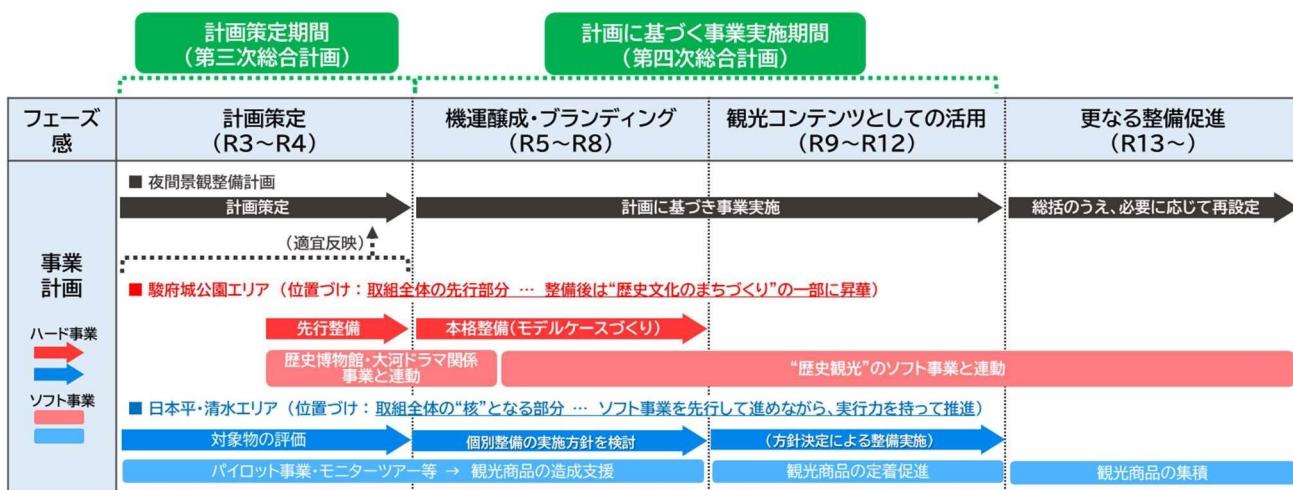
I 共通事項

4 計画期間

計画期間は、上位計画である「第4次静岡市総合計画」の期間と整合を図り、令和5年度から令和12年度までの8年間とします。

なお、「駿府城公園エリア」における夜間景観整備の取組については、計画全体の先行部分にあたることから、計画の前半部分にあたる、「令和8年度」を完了目標年度とします。

また、本計画策定以前からの官民での取組経緯を踏まえ、実施可能な夜間帯の観光振興事業については、ハード・ソフトともに前倒して実施し、その成果や反応等を、本計画に反映することとします。



5 成果目標(KGI)

本計画の最終年度である令和12年度における成果目標を以下の通り定めます。

本計画が、魅力的な夜間景観の整備と活用により観光客の滞在時間を延長させ、宿泊客数を増加に繋げ、地域経済の活性化を図ることを目的としていることから、成果目標は「市内延べ宿泊客数」とします。

なお、本成果目標達成のための評価指標(KPI)については、整備計画を定めるエリアごとの目標として別途定めることとします。

目指す姿	参考値(R1:コロナ前)	現状値	中間目標値(R8)	最終目標値(R12)
市内延べ宿泊客数	2,005千人泊/年	1,628千人泊/年(R3)	2,122千人泊/年	2,166千人泊/年
観光消費額単価	—	«日帰り» 4,413円/人 «宿泊» 27,094円/人 (R4)	«日帰り» 4,634円/人 «宿泊» 28,449円/人	«日帰り» 4,854円/人 «宿泊» 29,803円/人

※「第4次静岡市総合計画」の目標に基づき、夜間帯の観光振興によって寄与が期待される数値目標を、「目指す姿」として設定。

※「市内延べ宿泊客数」は「第4次静岡市総合計画」における「観光交流客数」の増加目標を基に設定。

6 夜間景観整備のデザインコンセプト

i) 夜間景観照明の基本的な考え方

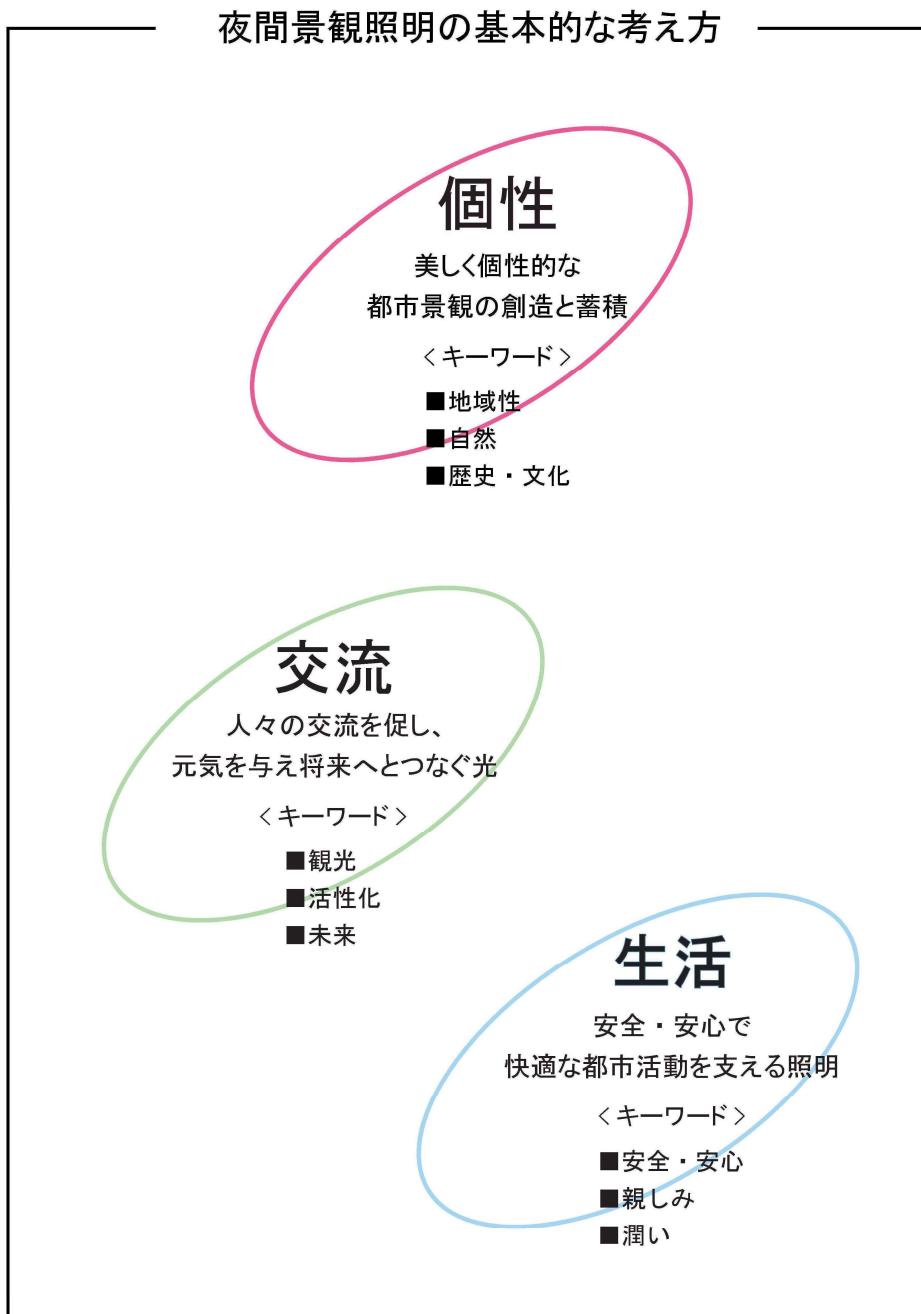
都市における照明の歴史はフランスのルイ14世時代にまでさかのぼり、午後9時以降は通りに面した窓に灯を点させたことが、そのはじまりといわれています。その数年後には、最初の街灯がパリに出現し、

① 都市の美観の創出 ② 生活時間、空間の拡大 ③ 都市の安全性の確保 の3点が、現代まで続く、都市における照明の効果として認識されています。

さらに、都市の照明がふつうのものとなった現在では、新たに「① 都市の美観の創出」に「都市の個性による魅力づくり」という意味合いが求められてきています。

また、「② 生活時間、空間の拡大」は当たり前となり、それを前提としてより人と人とがつながる絆や交流という観点が重視されてきているといえます。

これらを踏まえて、「夜間景観照明の基本的な考え方」を次のとおり整備します。



【コラム:都市における照明の効果】

最初の街灯がパリに出現した当時の案内書には、次のような一文が書かれています。

大通りには、夜 10 時または 11 時まで出ていても安全である。

日暮れになるとすべての街灯がつく。

これは夜明けの 2 時あるいは 3 時ごろまで燃えている。

その光景は非常に美しい。

十字路に立ってあちこちの通りを見わたすと特に美しい。

商店、酒場、タバコ屋などのなかには、

夜 10 時または 11 時まで店を開けているものがある。

それらの店の窓には、たくさんの中ソクが灯っていて、

通りへ明るい光を投げかける。

天気のよい晩には、昼間と同じくらいの人が通りへ出る。

このような人通りの多い賑やかな街路には、盗難や殺人事件は起こりにくい。

ここには、都市における照明の効果として、現代にまでそのまま当てはまる、

①都市の美観の創出 ②生活時間、空間の拡大 ③都市の安全性の確保 の目線が記されています。

ii) 夜間景観整備のデザインコンセプト

「夜間景観照明の基本的な考え方」に、本市が有する地域資源の目線、本市の取組方針(グランドデザイン、総合計画、SDGs等)を踏まえ、本市における夜間景観整備のデザインコンセプトを以下の通り設定します。

本デザインコンセプトに基づき、実際の対象エリアごとに、より詳細なデザインコンセプトを設定していきます。

1. 静岡らしさを生かした、美しく個性的な夜間景観

- ・富士山をはじめとする
雄大で豊かな自然を生かした夜間景観
- ・古より日本の中核都市として育まれてきた
独特の文化を生かした夜間景観
- ・様々な時代が織りなしてきた
重厚な歴史を生かした夜間景観

2. 未来へ向けて、交流を促す光

- ・暮らす人々の誇りとなるような光
- ・魅力的な観光資源となるような光
- ・次代へと引き継がれ蓄積されていくような光

3. 都市の快適な生活を支える、安全・安心な照明

- ・様々な都市空間の各特性に合わせた照明
- ・最新の照明技術を活用した照明
- ・持続可能な社会にふさわしい
環境やエネルギーに配慮した照明

静岡市夜間景観整備計画(案)

I 共通事項

7 エリアごとの整備計画の構成

本計画は、魅力的な夜間景観のモデルケース整備を検討するエリアである、「日本平・清水エリア」、「駿府城公園エリア」のそれぞれに編を分けて構成することとし、その内容は以下の通りです。

駿府城公園エリア編	日本平・清水エリア編
1. 前提整理	1. 前提整理
2. 夜間景観整備の方向性	2. 夜間景観整備の方向性
3. コンセプトイメージの設定	3. コンセプトイメージの設定
4. エリア目標・評価指標	4. エリア目標・評価指標
5. 整備手法の整理	5. 夜景の構成エリアの整理
6. 照明整備対象の評価・検討	6. 照明整備対象の評価・検討
7. 先行整備の内容	7. 整備工程
8. 本整備の内容	8. ソフト施策案と展開・連携のイメージ
9. ソフト施策案と展開・連携のイメージ	9. 推進体制
10. 推進体制	
別冊:先行整備の詳細仕様	

II 駿府城公園エリア編

目 次

1. 前提整理.....	20
i) 対象エリア.....	20
ii) 本計画上の位置づけ(再掲).....	22
iii) エリアの現況	23
2. 夜間景観整備の方向性.....	27
i) 方向性.....	27
ii) 先行整備事例の創出	27
3. コンセプトイイメージの設定	27
4. エリア目標・評価指標.....	28
5. 整備手法の整理.....	29
6. 照明整備対象の評価・検討	30
i) 与件:園内の電源系統.....	38
ii) 対象ごとの整理	39
7. 先行整備の内容.....	45
i) 整備対象	45
ii) 演出・デザイン	45
iii) 先行整備の詳細仕様	46
8. 本整備の内容.....	47
i) 整備工程.....	47
ii) 整備イメージ	48
9. ソフト施策案と展開・連携のイメージ	49
10. 推進体制.....	50

静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編

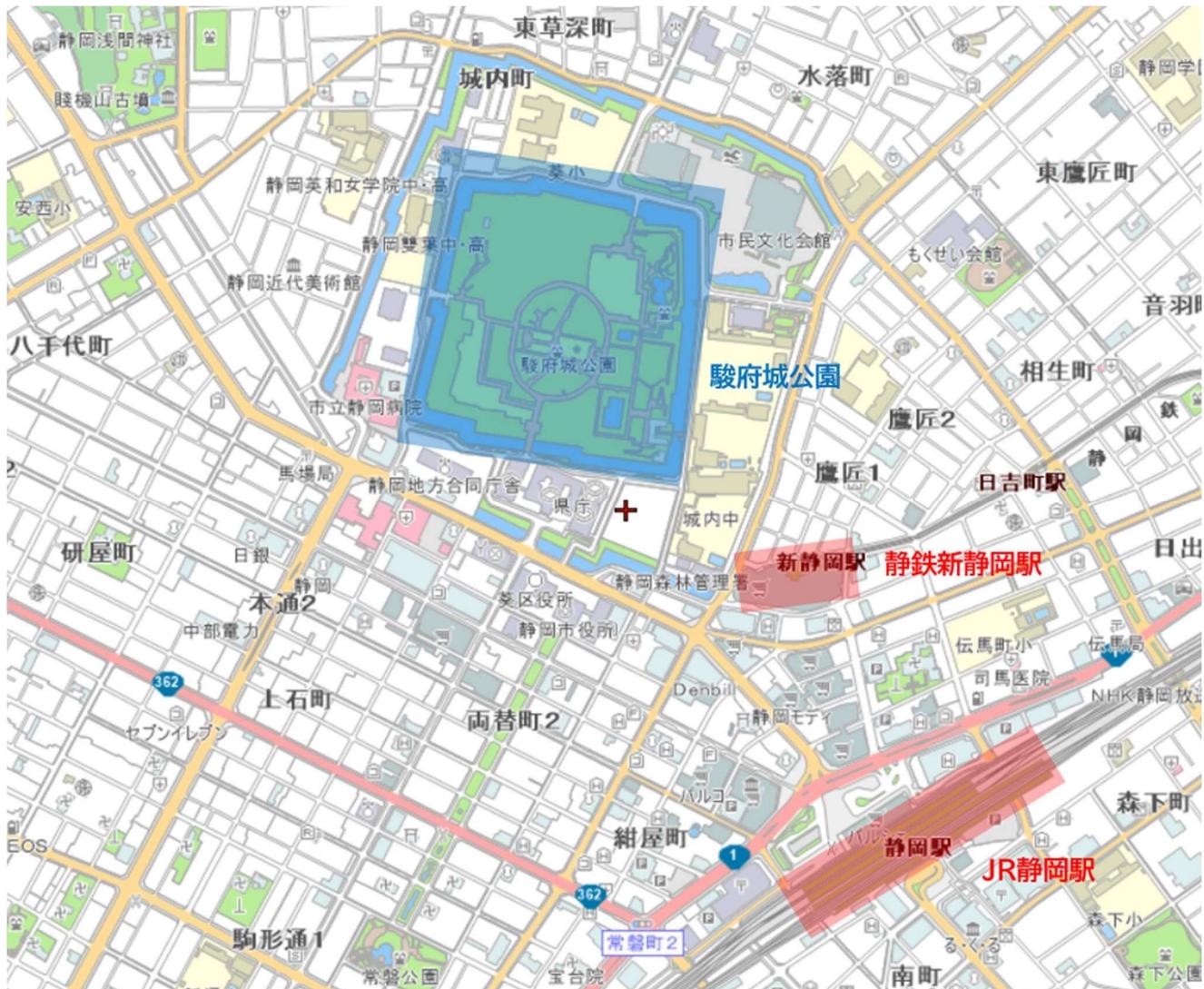
1. 前提整理

i) 対象エリア

夜間景観の整備を検討するエリアは、中心市街地(静岡地区)に位置し、本市を代表する歴史資源・観光資源である「駿府城公園(及びその周辺)エリア」とします。

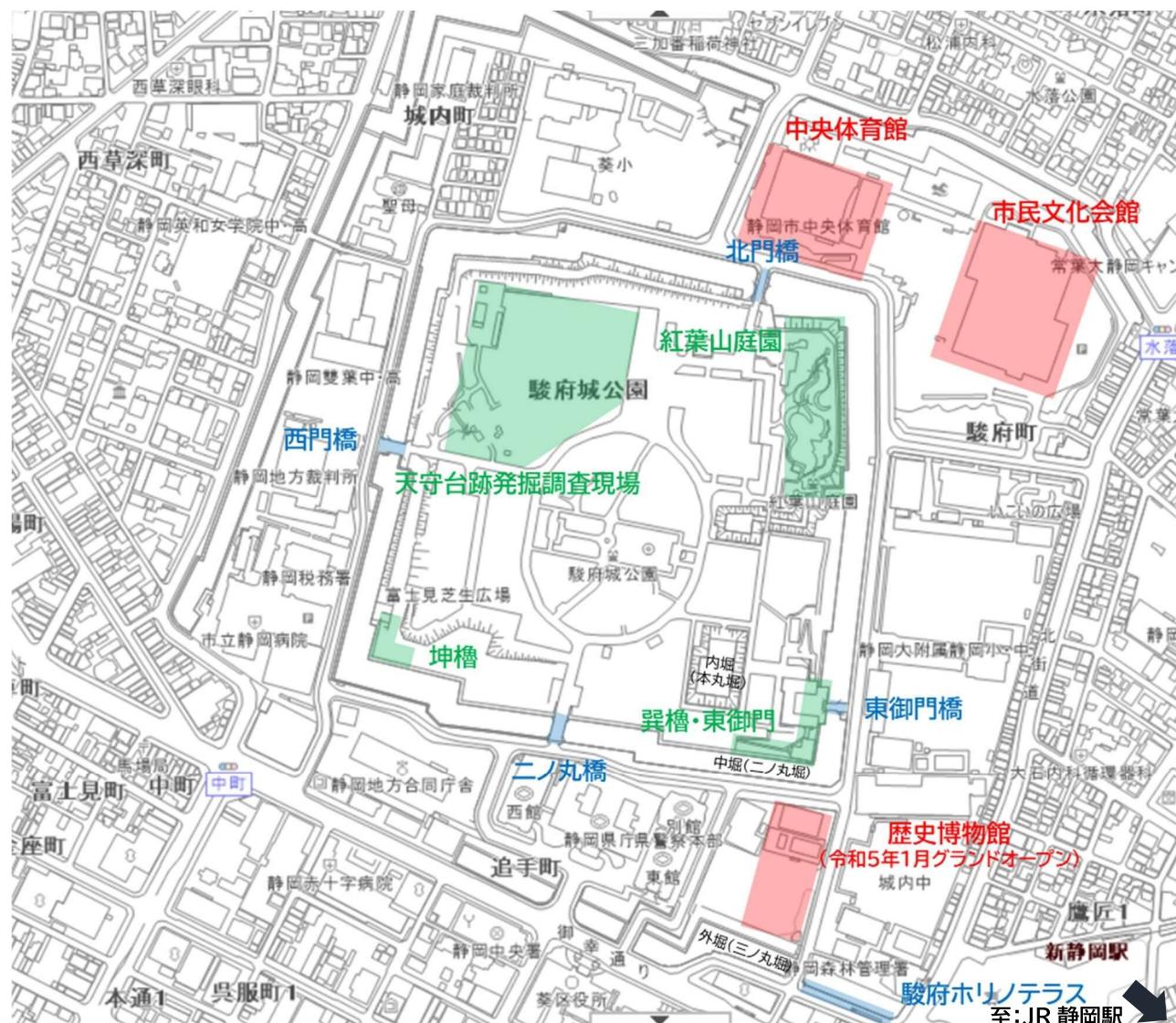
なお、実際の整備対象とする施設等については、検討エリア内の状況を分析のうえ、本計画内で定めることとします。

【駿府城公園:位置図】



静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編

【園内・周辺施設：配置図】



ii) 本計画上の位置づけ(再掲)

対象エリア	駿府城公園エリア	
範囲	・駿府城公園(周辺部を含む)	
主な 関連計画等	グランドデザイン	<p>葵歴史のまちづくりグランドデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針1:歴史を感じる <ul style="list-style-type: none"> … 駿府城公園周辺のライトアップ (リーディングプロジェクト) ・方針2:「おまち」のファンになる <ul style="list-style-type: none"> … ナイトツーリズムの推進
	静岡市景観計画	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡駅周辺ゾーン:都市景観促進地区 ・駿府城公園周辺地区:重点地区
	指定・認定	<ul style="list-style-type: none"> ・周知の埋蔵文化財包蔵地(文化財保護法) ・風致地区(都市計画法) ・日本100名城
観光面の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に位置し、来訪者による域内消費が期待しやすい ・公園内では大規模イベントも実施され内外から多くの来訪者がある ・歴史博物館のオープンを機に、歴史観光による一層の誘客が期待される ・駿府城公園の再整備が進行中であり、更なる受入環境向上が見込まれる ・民間事業者が参画した観光コンテンツの集積が進みつつある 	

«本計画に基づく整備事業の位置づけ:駿府城公園エリア»

- 中心市街地に位置しアクセス良好。今後、更なるコンテンツの集積も予定されていることから、多くの観光客を惹きつけるスポット。
- 市が所管する都市公園であり、夜間景観整備にあたっての調整事項が比較的少ない。
- 数年内に行政主導の整備事業が複数予定されているため、観光誘客の機を逃さず、連携して早期に事業を実施することで、夜間景観整備の機運醸成に向けた効果を効果的に創出することが期待される。

→ 本計画の先行部分として、計画期間の早期にモデルケースの創出を行う。

整備にあたっては、実際に市民や観光客の目に触れる機会を増やし、効果を最大化するため、周辺事業との足並みを揃え、必要に応じて前倒し等を検討しながら、効果的なタイミングで順次整備を進めしていく。

iii) エリアの現況

総論

駿府城公園は、中心市街地(静岡地区)に位置し、商業・業務施設や観光庁施設等とのアクセスに優れ、鉄道主要駅に至近であるとともに二次交通網も充実しています。

また、本市の歴史文化のまちづくりの拠点となる「静岡市歴史博物館」や「天守台野外展示事業」のほか、文化施設である「静岡市民文化会館」、スポーツ施設である「静岡市中央体育館」「駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーション」なども所在し、単なる都市公園としての機能だけでなく、本市の歴史や文化を背景とした集客・交流の核となる機能を有するエリアでもあります。

こうした背景により、民間事業者等による投資も積極化しており、公園内でのイベントの実施や飲食店営業、中堀を巡る遊覧船の運航など、観光コンテンツの集積が進みつつあります。



静岡市夜間景観整備計画(案)

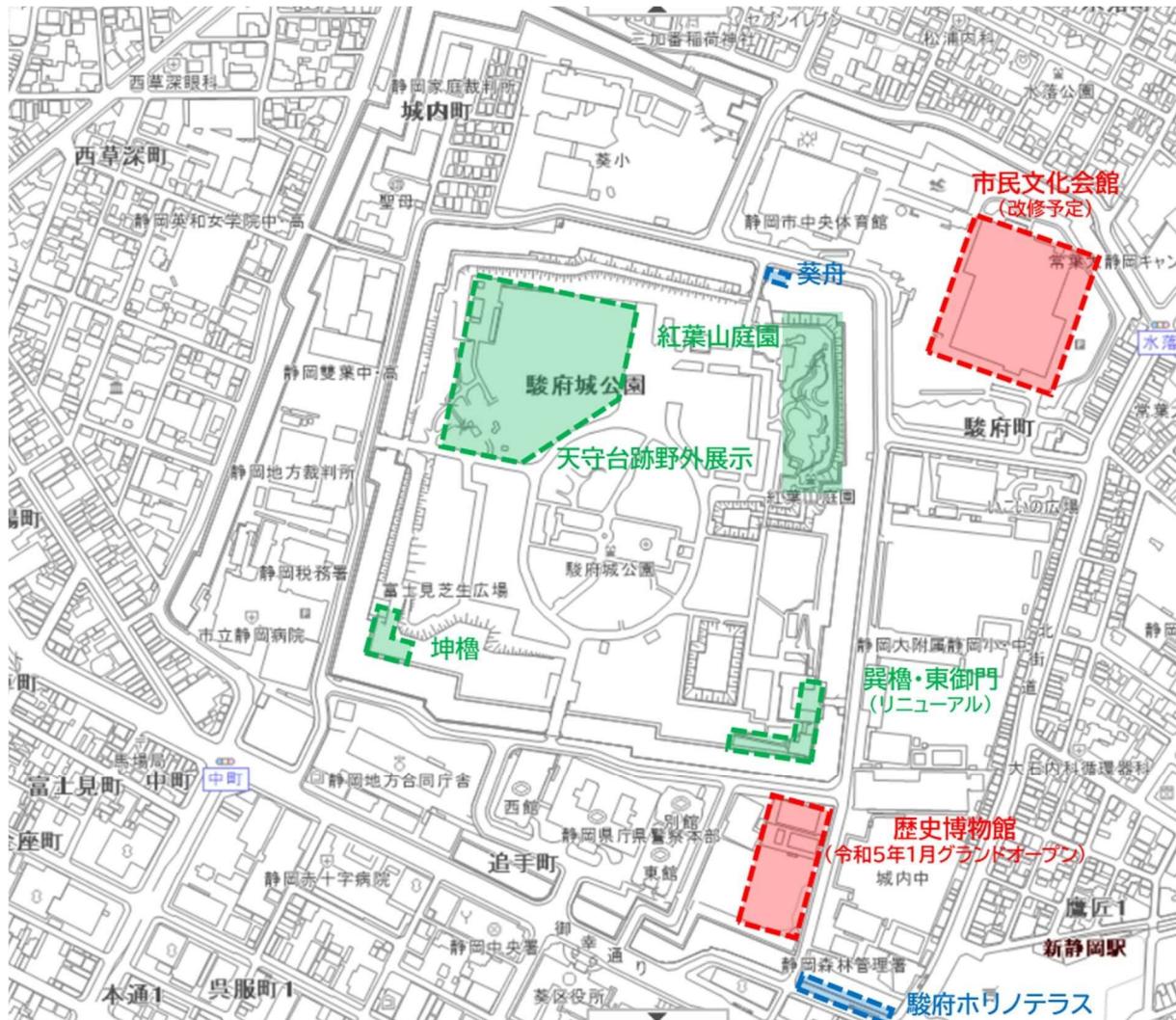
II 駿府城公園エリア編

観光面の現況

観光客に対する観光コンテンツとして提供可能な資源の集積状況を以下の通り整理します。

また、駿府城公園内の広場等では、民間主催者による大小様々なイベントや出店が実施されており、公園を活用した民間ベースでの集客が期待されます。

【観光コンテンツとして活用可能な資源(整備予定を含む)】



【駿府城公園内での主な大規模イベント】

時期	4月	5月	8月	11月
イベント	静岡まつり	ピクニックガーデン ストレンジシード	駿府城夏祭り	大道芸 ワールドカップ

【公園内の行為許可申請数(令和元年度)】

使用の種類	イベント	出店	その他(撮影等)
件数	46 件	66 件	220 件

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

景観面の現況

«昼間の景観»

駿府城公園の四周を囲む二ノ丸堀沿いには、石垣、土塹、門、隅櫓、橋等の遺構・復元建造物が残り、歴史を感じさせる景観をつくり出しています。

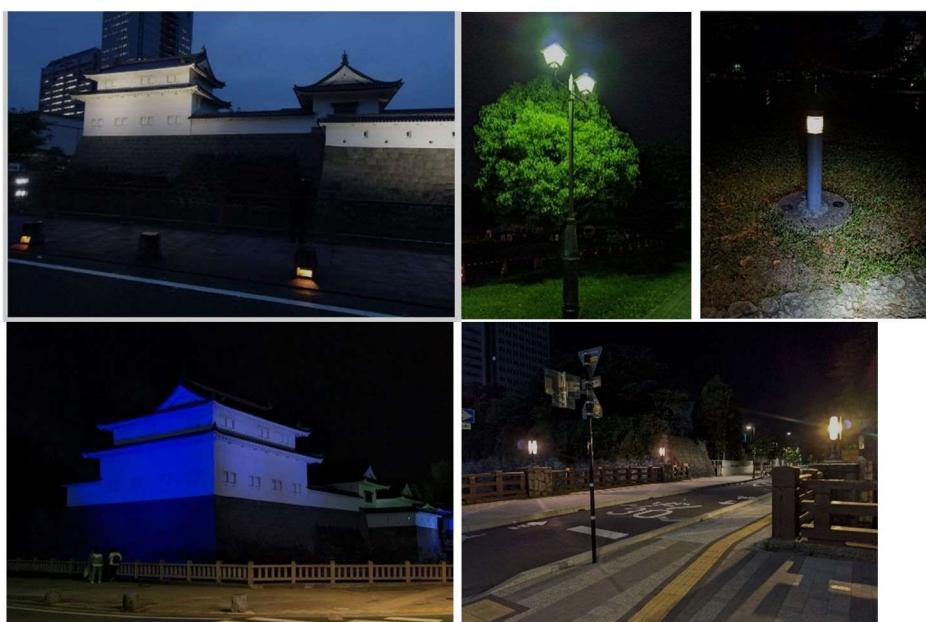
また、園内は都市公園として広場や芝生空間が整備されているほか、随所に駿府城跡としての歴史を物語る痕跡や遺構が残されています。



«夜間の景観»

復元建造物(巽櫓、東御門、坤櫓)に対して簡易的なライトアップが施されているほか、園内には外灯が点在しており、夜間の通行には支障ない状態となっています。

周辺の市道には、既存の街路灯や民間企業から寄贈されたガス灯等が点在しているほか、近年整備された足元灯は暖色系で統一されており、エリアとして一体的な空間を創り出すことに配慮されています。



静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

«景観形成の目標・方針»

静岡市景観計画(重点地区景観計画 駿府城公園周辺地区)では、本エリアの景観形成について以下の通り定められています。

夜間景観の整備にあたっては、ここに定められた目標・方針に則って検討を進めることとします。

1. 景観形成の目標及び方針

本地区は、行政や文化の中核的な機能を担い、駿府城跡の歴史性を感じる静岡市の象徴となる風格のある重要な地区です。このため、風致地区を中心とした地域における景観維持や歴史性に配慮した景観形成に取り組むこととします。

1) 景観形成の目標

本地区は、官公庁施設や教育施設などが駿府城跡の堀周辺に集積し、政令指定都市としての風格を持つ区域です。駿府城跡の歴史的雰囲気を感じさせ、堀の周辺の木々の緑や水面がうるおいを与えてくれるなど、市民の憩いの空間となっている地区です。このような景観特性を踏まえ、景観形成の目標を次の3点とします。

目標①:政令指定都市として風格あるまち並み景観の形成

目標②:市民等が歴史性を感じ、親しめ、うるおいのある景観の形成

目標③:周辺商店街との回遊性を保ちながら、人々が集まり、賑わいのある景観の形成

2) 景観形成の方針

⑧夜間景観に関する方針

駿府城跡の歴史的雰囲気を高め、魅力的な夜景景観の演出となるよう努めます。

2. 景観形成基準

2) 工作物等の形態意匠

⑤照明

建築物や植栽、ストリートファニチャー等をライトアップする場合は、隣接する施設相互の照明に配慮し、効果的な夜間景観の演出に努める。

2. 夜間景観整備の方向性

i) 方向性

エリアの特性や配慮すべき事項等を踏まえ、駿府城公園エリアにおける夜間景観整備の方向性を以下のとおり設定します。

特性・配慮すべき事項	整備の方向性
本計画の「先行部分」に位置づけ	早期の整備事例・事業効果を創出
景観形成の目標・方針	「風格」「歴史性」「回遊性」に配慮した整備
既存照明、並行する整備事業の存在	相互の照明に配慮したエリア一体の雰囲気づくり
文化財保護法等による制限	関連法令に適合した整備

ii) 先行整備事例の創出

本エリアは、計画策定年度である令和4年度に、「歴史博物館」のグランドオープンや本市とゆかりの深い徳川家康公を主人公とした「大河ドラマ」の放映及び関連プロモーションの開始という、またとない誘客契機を控えているエリアであることから、その機を逃さず、多くの来訪者に対して魅力的な夜間景観としての発信を行うとともに、その整備内容や成果等を整備事業全体に反映するため、計画策定と並行し、「先行整備事例」の創出を行いました。

なお、先行整備に係る設計内容については、本計画の別冊として整理します。

【本エリアにおける誘客契機と夜間景観の整備時期】

年度	R4	R5	R6	R7	R8
関連事業	歴史博物館 (グランドオープン) 大河ドラマ 関連事業(開始)	大河ドラマ 関連事業(継続)	駿府城公園再整備事業		
整備時期	先行整備 計画策定	本格整備開始			整備完了

3. コンセプトイメージの設定

本エリアにおける景観照明にはどのようなものが望ましいか、コンセプトイメージとして整理します。

コンセプトイメージが、より印象的で拡がりのある内容となるよう、各々の特色を端的に表すコンセプトフレーズを以下のように設定します。

駿府城公園：江戸のオリジン・歴史体感夜景

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

4. エリア目標・評価指標

本計画が、夜間帯の観光振興を通じた経済効果の実績創出と市民や事業者の機運醸成に立脚していることから、エリアの目標と成果指標としては、短期的な成果指標を中心とし、以下のとおり定めます。

※₁ 最終目標値は、本計画の最終年度である令和12年度を基準とする

※₂ 現状値は、新型コロナウィルス感染症の影響が本格化する直前の令和元年度を基準としている

(KGI:共通事項)

目指す姿	参考値(R1:コロナ前)	現状値	中間目標値(R8)	最終目標値(R12)
市内延べ宿泊客数	2,005千人泊/年	1,628千人泊/年(R3)	2,122千人泊/年	2,166千人泊/年
観光消費額単価	—	「日帰り」4,413円/人 「宿泊」27,094円/人 (R4)	「日帰り」4,634円/人 「宿泊」28,449円/人	「日帰り」4,854円/人 「宿泊」29,803円/人

※「第4次静岡市総合計画」の目標に基づき、夜間帯の観光振興によって寄与が期待される数値目標を、「目指す姿」として設定。

※「市内延べ宿泊客数」は「第4次静岡市総合計画」における「観光交流客数」の増加目標を基に設定。

(KPI:エリア目標・評価指標)

評価指標	現状値(R3)	中間目標値(R8)	最終目標値(R12)
魅力的な夜景スポットとしての認知度	—	40.0%	50.0%
景観照明の延べ整備箇所数	1箇所	3箇所	—

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

5. 整備手法の整理

整備対象エリア内の主な対象物に応じた整備手法や整備イメージを整理すると以下の通りとなります。

整備対象	照明手法	イメージ
建造物 (櫓・橋梁など) ※復元建造物を含む	<ul style="list-style-type: none"> 対象物のライトアップ 演出用照明の取り付け 	 
遺構 (お堀・石垣など)	<ul style="list-style-type: none"> 対象物のライトアップ 	 
外灯・街路・道路灯	<ul style="list-style-type: none"> 照明灯の追加、更新 	 
樹木等の自然物	<ul style="list-style-type: none"> 対象物のライトアップ 演出用照明の設置 	

6. 照明整備対象の評価・検討

静岡市の魅力ある夜間景観を創出するのにふさわしい照明整備対象を選定するために、景観調査を実施しました。

文献調査、現地確認、関係者ヒアリングなどにより、景観照明の対象として魅力的であると考えられるものをリストアップし、景観照明デザインの観点から以下の5つの評価指針に基づき評価を行いました。

1. 個性 立地、周辺環境、社会、風土など、静岡市としての個性につながる光と成り得るか。
2. 歴史・文化 歴史ある建築・名所・旧跡や文化的な公共建築など、歴史的・文化的に価値があるか。
3. 景観性 規模や意匠など、そのもの自体の特性が景観照明の対象として優れているか。
4. 視点場 より多くの人が目にすることができる夜間景観を楽しめる場所のある対象か。
5. 既存景観照明 既存景観照明のない方が、現状との違いが分かりやすく整備効果が高い。

景観照明デザイン上の5つの評価指針による評価を行った後、それらの結果を総合した内容を「夜間景観上の重要度」として、各対象をA、B、C、D、Eの5段階に整理しました。

この総合評価は、対象に景観照明が灯されたときに、静岡市としての魅力ある夜間景観の充実にどれだけ寄与しうるものであるかという観点から行われているため、景観照明を実施した際の効果の高さを判断する指標、および景観照明を実施する優先順位を判断する目安ともなるものです。

「夜間景観上の重要度」

- A: 効果が非常に高い対象
- B: 効果が高い対象
- C: 効果がある対象
- D: 効果が期待できる対象
- E: 上記以外の対象

«視点場について»

景観照明の対象としては、どこから見えるのかが重要なポイントとなります。対象を見ることのできる場所、いわゆる「視点場」によって見え方や周囲環境などが異なり、夜間景観としての印象も大きく左右されます。

優れた視点場は、以下のような条件を満たすことが必要です。

- ① 位置 遠すぎたり建物の陰になっていないなど、対象がはっきりと見える場所である。
- ② アクセス 人々が容易にいくことのできる場所である。
- ③ 場の環境 夜間でも安全に景観を楽しめる状況である。
- ④ 景観 背景に眩しい光が無いなど、周囲の景観が対象の景観を損なっていない。

一般に視点場が多い(より広範囲から見える)方がよい対象であるとされますが、限られた視点場しかない対象であっても、その景観が特に印象深いものである場合は、独特の夜間景観として街の個性に繋がることが期待できます。

静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編

駿府城公園エリア対象一覧

NO.	名 称	評 価					夜間景観上の 重要度
		個性	歴史 文化	景観性	視点場	既存景観 照明	
1	駿府城 翼櫓	特高	高	特高	多	有	A
2	駿府城 東御門	特高	高	特高	多	有	A
3	駿府城 坤櫓	特高	高	特高	多	有	A
4	駿府城 天守台跡屋外展示	特高	高	高	中	-	B
5	駿府城 紅葉山庭園	特高	高	高	少	-	C
6	駿府城 東御門橋	特高	高	高	多	有	B
7	駿府城 二ノ丸橋	高	高	中	多	-	C
8	駿府城 西門橋	高	高	中	多	-	C
9	駿府城 北門橋	高	高	中	多	-	C
10	駿府城 二ノ丸濠の石垣	高	高	高	多	-	B
11	駿府城 本丸濠	高	高	中	多	-	C
12	静岡市歴史博物館	高	中	高	多	-	C
13	市民文化会館	中	高	高	多	-	C

駿府城公園エリアにおける対象選定に際しては、周辺を含めたエリア全体としての特徴を把握するために、より広域での対象調査も行ったので、参考として以下に追記します。

駿府城公園エリア(広域)対象一覧

14	静岡市役所 静岡庁舎本館	特高	高	特高	多	-	A
15	静岡県庁本館	特高	高	特高	多	-	A
16	静岡銀行本店	高	高	高	多	-	B
17	静岡浅間神社	特高	高	高	中	-	B
18	静岡大橋	高	低	高	多	-	D
19	安倍川橋	高	低	高	多	-	D
20	宇津ノ谷峠 明治のトンネル	高	高	低	少	-	E
21	木枯森	高	中	中	多	-	D
22	登呂遺跡	高	高	中	多	-	C
23	常磐公園	中	高	中	多	-	D
24	麻機遊水池	中	低	中	中	-	E

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

駿府城公園エリア対象写真



1 駿府城 翼櫓



2 駿府城 東御門



3 駿府城 坪櫓



4 駿府城 天守台跡発掘調査現場



5 駿府城 紅葉山庭園



6 駿府城 東御門橋

静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編



7 駿府城 二ノ丸橋



8 駿府城 西門橋



9 駿府城 北門橋



10 駿府城 二の丸濠(石垣)



11 駿府城 本丸濠(石垣)



12 静岡市歴史博物館

静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編



13 市民文化会館



14 静岡市役所 静岡庁舎本館



15 静岡県庁本館



16 静岡銀行本店



17 静岡浅間神社



18 静岡大橋

静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編



19 安倍川大橋



20 宇津ノ谷峠 明治のトンネル



21 木枯森



22 登呂遺跡



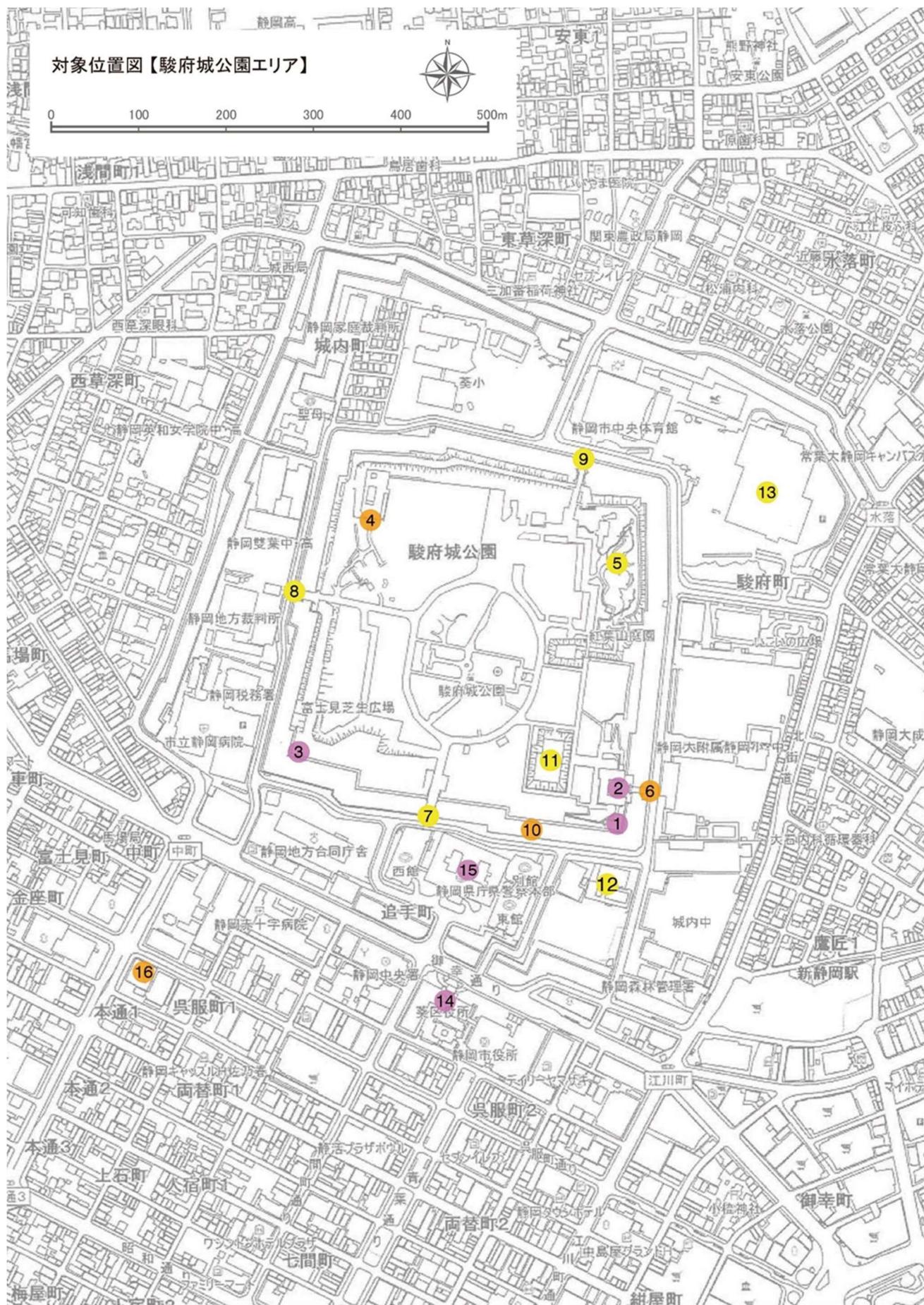
23 常磐公園



24 麻機遊水池

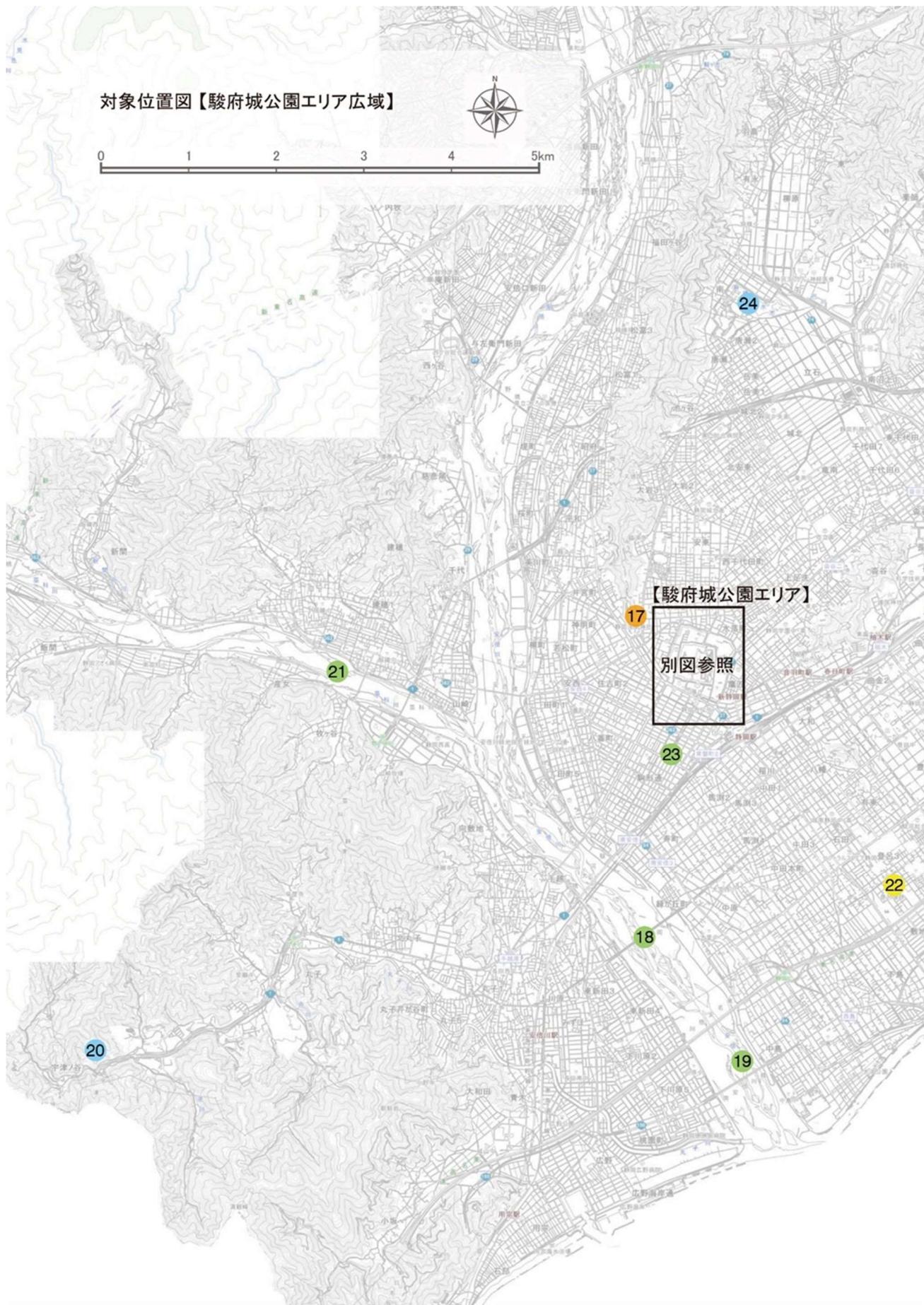
静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編



静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編



静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編

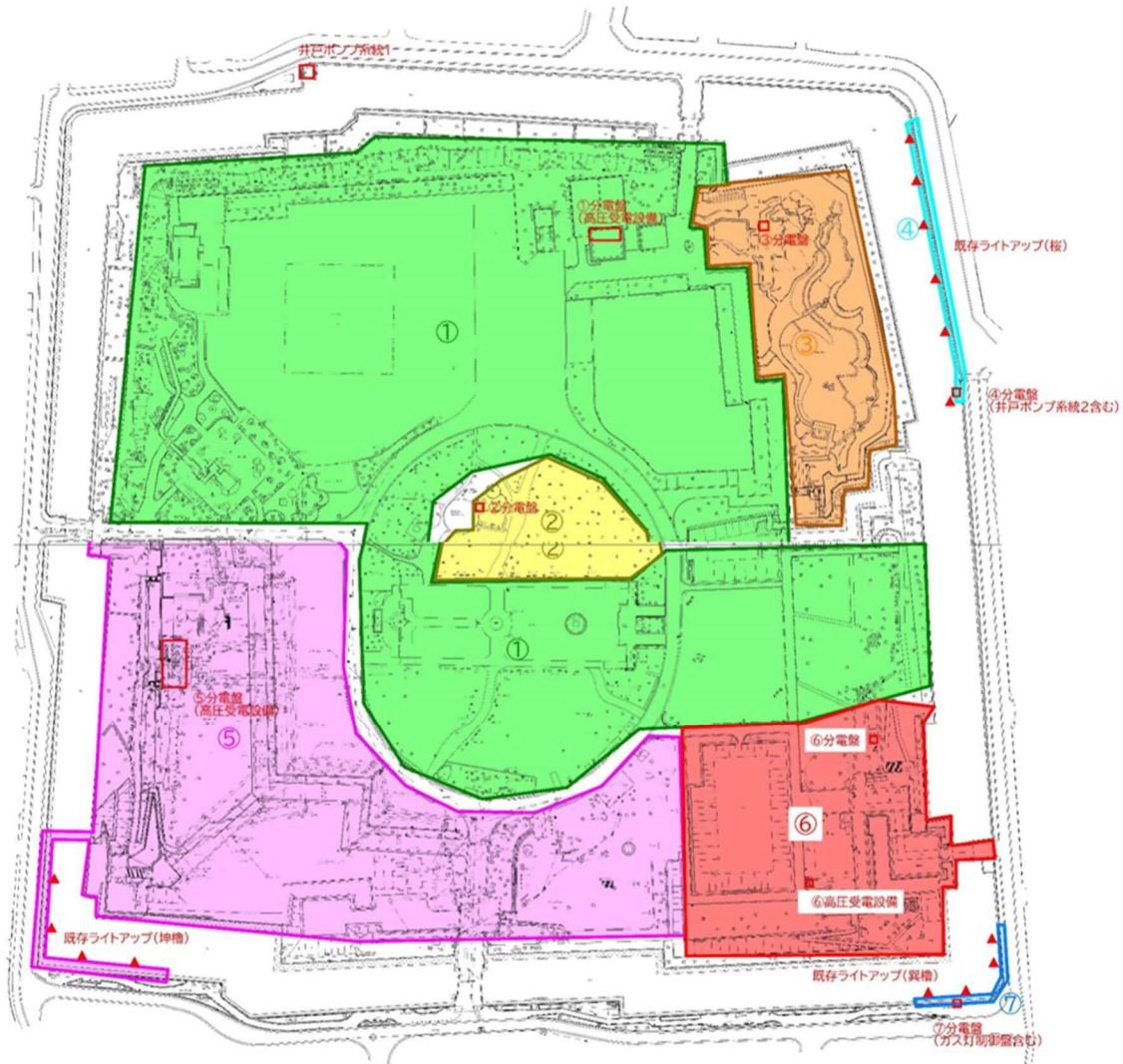
i) 与件:園内の電源系統

夜間景観の整備を進めるにあたり、園内の電源系統を考慮した整備が必要となります。

駿府城公園については、今後も、様々な整備事業が計画・予定されているため、効率性の観点から、原則として既存の電源系統を活用した整備を進めていくこととします。

【既存の電源系統】

系統	対象
①	天守台跡、園内(沈床園、紅葉山庭園前広場、東御門前広場等)
②	園内(中央広場)
③	紅葉山庭園
④	中堀外周(桜ライトアップ照明)
⑤	坤櫓、園内(富士見芝生広場、自動広場ほか)、二ノ丸堀外周(坤櫓ライトアップ照明)
⑥	巽櫓・東御門、園内(本丸堀ほか)、東御門・東御門橋ライトアップ照明
⑦	二ノ丸堀外周(坤櫓ライトアップ照明)



ii) 対象ごとの整理

巽櫓、東御門・東御門橋

«概要»

- ・日本古来の伝統工法に則って復元された建造物(巽櫓:平成元年、東御門:平成8年復元)
- ・施設内部は資料館として有料公開され、観光施設としても機能している。
- ・JR 静岡駅側からアクセスする場合、最初に目に入る建造物であり、南東側からの視点場は撮影スポットにもなっており、駿府城公園の“顔”といえるスポット。

«夜間の現況・課題»

- ・二ノ丸堀の対岸側に投光器があり、櫓や御門に対して簡易的なライトアップが行われている。
- ・簡易的なライトアップで、陰影が薄く、平面的な印象となっているため、当時の工法を用いて復元した建造物の特長を表現しきれていない。
- ・キャンペーン期間中等に、他団体からの要望に応じる形で巽櫓のカラーライトアップを行っているが、照明機器にカラーフィルムを被せる方法を取っており、手間がかり、意匠性に乏しい。

【巽櫓・東御門白色ライトアップ】 【巽櫓カラーライトアップ】 【巽櫓投光照明機器】



«位置»



«評価»

- 駿府城公園エリアの風格や歴史性を象徴する、象徴的な建造物である。
- 中心市街地からの主要動線(市道城内一号線)の結節点に位置することから、来訪者の目に触れる機会や露出機会も多い。

«整備方向性»

- 既存の照明機器を新し、エリアの“顔”に相応しいライトアップを行う。
- 基本は、駿府城公園や復元建造物の風格や歴史性を際立たせる白色のライトアップとするが、色替えや誘客効果を高めるための特別演出のため、カラー照明整備も行う。
- 復元建造物に対しては文化財保護法等による規制はないものの、当時の工法を用いて復元されたものであるため、施設への負荷が少ないよう、機器の取付位置や方法等を考慮する。

静岡市夜間景観整備計画(案) II 駿府城公園エリア編

坤櫓

«概要»

- ・巽櫓と同一辺上の反対側(南西隅)に位置する復元建造物。
- ・日本古来の伝統工法に則って復元。(平成26年復元)
- ・施設内部は資料館として有料公開され、観光施設としても機能している。

«夜間の現況・課題»

- ・二ノ丸堀の対岸側に投光器があり、櫓や御門に対して簡易的なライトアップが行われている。
- ・簡易的なライトアップで、陰影が薄く、平面的な印象となっているため、当時の工法を用いて復元した建造物の特長を表現しきっていない。
- ・キャンペーン期間中等に、他団体からの要望に応じる形で巽櫓のカラーライトアップを行っているが、照明機器にカラーフィルムを被せる方法を取っており、手間がかり、意匠性に乏しい。

【白色ライトアップ】



【カラー ライトアップ】



【投光照明機器】



«位置»



«評価»

- 巽櫓と一体的に、駿府城公園の正面となる一辺を構成する一角として重要。
- 駿府城公園から静岡浅間神社方面に抜ける場合の経由地点となるため、歴史観光によるエリア間の回遊等をイメージすると重要な整備対象となる。

«整備方向性»

- エリアとしての「面的な整備」を意識すると整備すべき対象となる。

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

天守台跡野外展示

«概要»

- ・駿府城の天守台跡の展示事業
- ・天守台や天守閣の規模感を見える化し、駿府城の歴史的価値や背景を物語る仕掛けとする。
- ・現在は、発掘調査現場として仮囲い内を限定的に公開しているが、供用開始後は、園内から遺構部を望めるとともに、遺構の間近で迫力を感じられる園路整備を予定している。

«夜間の現況・課題»

- ・供用開始後は、夜間のライトアップや見学も予定している

【天守台跡発掘調査現場】



«位置»



«評価»

- 本市や駿府城の歴史的価値を物語る、非常に重要な資源であり、ライトアップによりその価値を際立たせる演出は非常に効果的と考えられる。

«整備方向性»

- 野外展示としての供用開始に合わせた照明整備により、誘客効果を最大化する。

静岡市夜間景観整備計画(案) II 駿府城公園エリア編

二ノ丸堀の石垣

«概要»

- ・駿府城公園の四周を囲む二ノ丸堀の石垣。(観賞対象としては堀の内側の石垣が検討対象)
- ・築城当時の石垣のほか、埋立新造された石垣、崩落後復元された石垣等が混在している。
- ・駿府城築城時の歴史を物語る貴重な歴史資源・観光資源。

«夜間の現況・課題»

- ・石垣そのものへのライトアップ等は行われておらず、既存のライトアップ(巽櫓・東御門・坤櫓・桜)の漏れ出た光が石垣の一部を照らしている状態。

【巽櫓・東御門周辺】

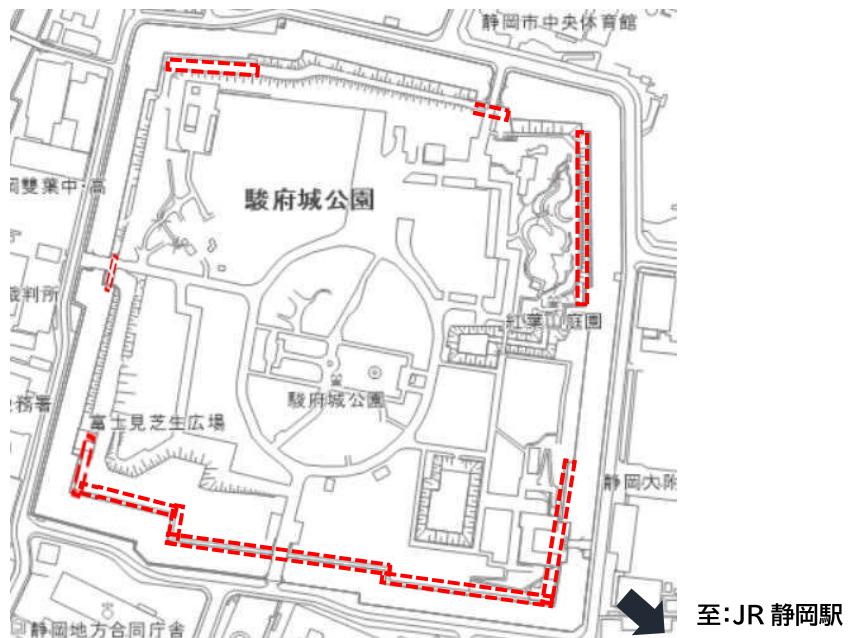


【坤櫓周辺】



«位置»

※中堀内側は植栽のみの箇所もあり。石垣が存在している部分のみ赤囲み。



«評価»

- 歴史的価値が高く、観賞対象としても魅力が高いため、石垣そのものの魅力を際立たせることが効果的。
- 櫓など周辺部の石垣は、建造物と一体的に景観を構成しているため特に重要な対象物となる。

«整備方向性»

- 櫓など周辺部の石垣は、建造物への照明整備と併せて整備を検討。
- 途中部の石垣についても、エリアとしての「面的な整備」を意識すると検討対象となる。

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

二ノ丸堀にかかる橋(東御門橋を除く)

«概要»

- 駿府城公園の四周を囲む二ノ丸堀にかかる橋。
- 東御門橋を除く橋は、近年架設されたものであり、歴史的な復元建造物ではない。

«夜間の現況・課題»

- 橋のライトアップ等ではなく、外灯や道路灯により照らされているのみ。(通行に支障はない)
- 二ノ丸橋の道路側歩道(家康公の散歩道)にはガス灯があり、暖かい雰囲気を形成している。

«位置»



«評価»

- 橋自体の歴史性が薄いため、照明対象物としての優先順位は低い。
- 一方で、橋の存在を際立たせることで、来訪者を園内へ誘う役割を担う。

«整備方向性»

- エリアとしての「面的な整備」を意識すると検討対象となる。
- 来訪者の動線を意識して、効果や効率面で、整備対象とすべき部分は精査が必要。

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

外灯、街路灯

«概要»

- ・公園の周辺には足元灯、街路灯、道路等、園内にも複数の外灯が存在

«夜間の現況・課題»

- ・同時期に整備された照明は一体感があるが、整備時期に差があるため、ややまばらな印象。
(夜間の通行に支障はない)
- ・城内一号線の足元灯は暖色系で統一されており、一体的な雰囲気を醸成している。
- ・二ノ丸堀外周の南側歩道「家康公の散歩道」にはガス灯が点在し、暖かな景観を形成している。
【城内一号線:足元灯】【家康公の散歩道:ガス灯】 【園内外灯】



«評価»

- 外周部の城内一号線は統一的な景観を形成している。
- 園内の外灯はややまばらな印象はあるもののゾーンごとには統一感も感じられる。
- 一部、老朽等によるものと思われる点灯不良も散見される。

«整備方向性»

- 効率性の観点から、老朽に伴う順次改修時に、統一的な照明演出となるように検討していく。

7. 先行整備の内容

令和4年度の「歴史博物館」グランドオープン、「大河ドラマ関連事業」開始という、本エリアへのまたとな
い誘客契機に合わせて、本計画策定期間である令和4年度中に「先行整備事例」の創出を行いました。

先行整備事例の創出により、令和4年度に本エリアを訪れる多くの来訪者に対して魅力的な夜間景観を
実際に発信し露出獲得に繋げるとともに、地域内での機運醸成に繋げ、その整備内容や成果等を整備事業
全体に反映していきます。

i) 整備対象

本エリアの“顔”となる象徴的な建造物であり、「静岡市歴史博物館」の対面にあたる、
「巽櫓・東御門・東御門橋・周辺の石垣部」を整備対象としました。

ii) 演出・デザイン

演出

«基本演出»

整備対象の櫓や石垣、駿府城公園自体の歴史的価値や風格を際立たせる静的な白色ライトアップ
要望に応じて実施するカラーライトアップ(8本)

«特別演出»

点灯式や催事時、特定期間等、誘客効果を高めるための変化を加えた特別なカラー演出(6本)

主な視点場

«二ノ丸堀の南西隅»

城内一号線の結節点にあたり、多くの来訪者が写真撮影等を行うスポット。
巽櫓を正面から捉えるアングルとなり、本エリアのメインビジュアルとなる景観を構成する視点場。

«静岡市歴史博物館前庭»

歴史博物館の巽櫓側前庭部分には、イベント利用等を想定した屋外スペースが整備された。
夜間の屋外イベント等により活用される場合には、格好の視点場として機能することが想定される。

«静岡市歴史博物館回廊»

歴史博物館の2階～3階にかけての回廊部分は、巽櫓を眼下に本エリアを見渡す眺望地点にもなる。
通常夜間は閉館するが、ユニークベニューとしての活用等により、入館できた場合には、特別感のある
付加価値の高い視点場として機能することが想定される。

デザイン

«イメージパース:白色ライトアップ»



«イメージパース:カラーライトアップ(緑)»



iii) 先行整備の詳細仕様

先行整備に関する詳細な仕様は「静岡市夜間景観整備計画 駿府城公園エリア編(別冊)」に定めます。
(計画本体の内容に関わらないため省略)

8. 本整備の内容

本エリアの整備完了目標年度である、「令和8年度」までの整備内容及び工程を設定します。

i) 整備工程

令和8年度までの段階的な整備工程と対象物を設定します。

なお、工期設定にあたっては、本エリアで今後予定されている、ハード整備事業と優先して点灯時期を合わせることで、観光誘客・観光振興上の相乗効果創出を目指します。

■令和4年度
(先行整備)
「歴史博物館」グランドオープン、「大河ドラマ関連事業」開始に合わせて、駿府城公園エリアの“顔”である巽櫓・東御門周辺のライトアップを一新する。施設来訪者に日没時間以降までの滞在を促し、経済効果創出を図る。

■令和6年度
(第1工期)
先行整備を行った「巽櫓・東御門周辺」から内堀周辺や駿府城公園内へ誘うため「二の丸橋・坤櫓等」へのライトアップを整備し、来訪者の回遊性を高めるとともに、滞在時間の延伸を促し経済効果創出を図る。

■令和7～8年度
(第2工期)
並行して実施される関連事業に合わせ、遺構部へのライトアップを整備する。駿府城公園の持つ歴史的背景や価値を浮き上がらせるとともに、公園内の夜間の滞在コンテンツとして提供する。

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8
関連事業			駿府城公園再整備事業			
		歴史博物館 (グランドオープン) 大河ドラマ 関連事業(開始)	大河ドラマ 関連事業(継続)	—	—	—
先行整備			対象:巽櫓、東御門、東御門橋、石垣部			
	設計	点灯				
第1工期			対象:坤櫓等			
		設計	点灯			
第2工期			対象:天守台跡野外展示等		設計	点灯

静岡市夜間景観整備計画(案)

II 駿府城公園エリア編

ii) 整備イメージ

«イメージパース: 坪櫓ライトアップ»



«位置図: 翼櫓»



9. ソフト施策案と展開・連携のイメージ

魅力的な夜間景観を活用し、本市を訪れる観光客の滞在時間延長や宿泊促進に繋げるための、ソフト施策案を例示します。

■海外向け情報発信強化

«施策案»

- ・世界各地にある在外公館(大使館、総領事館等)でのレセプションにおいて、夜景ポスターの掲示やチラシの配架、夜景プロモーション動画の放映等による、静岡夜景のPRを実施し海外からの誘客につなげる。
- ・夜景HPを充実させるとともに、新規ページの英語対応により、海外向け情報発信にHPを活用する。

■夜間特別ガイドツアー

«施策案»

- ・夜景ガイドを養成し活用するほか音声案内を用いて、夜の歴史観光を楽しむツアーを催行する。
- ・夜間は、日中に比べて周辺の余計な情報がシャットダウンされるため、ライトアップにより照らし出された歴史資源がより幻想的な雰囲気を醸し出す。
- ・こうした環境の中で、歴史をテーマとしたガイドツアーを実施することで、本市の歴史の一層ディープな魅力を発信する。

«展開・連携のイメージ»

- ・歴史博物館や駿府城公園内有料施設など、普段は日中しか入場できない施設の夜間開館と連携
- ・静岡浅間神社の夜間特別拝殿など、旅行会社向けにパッケージ化されている商品と組み合わせる
- ・観光客に参加を促すための情報の流通経路を構築し、民間ツアーとして催行・定着を目指す

■宿泊施設・飲食店等との連携

«施策案»

- ・上記で商品化したツアー商品などを、宿泊施設や飲食店と連携してセットプランとして販売。
- ・魅力的な宿泊プランとして観光客へ提案し、直接的に宿泊需要創出を図る。
- ・夜景観賞と飲食のセットプランとすることで、観光客の滞在時間の延伸につなげ、地域内での消費拡大を図る。

«展開・連携のイメージ»

- ・静岡駅周辺のホテル数社で共通プランとして販売
- ・宿泊者にフロントでオプショナルツアーとして販売し、滞在者のまちあるきや満足度向上を促す
- ・ガイドツアー参加者へのサービスとして、指定の飲食店にて飲み物1杯サービスや飲食代の割引を行い、夜景観賞と飲食店への相互送客を図る。

■民間イベントとの連携

«施策案»

- ・本エリアでは、夜間に多くのイベントが開催されているため、イベント開催に合わせてライトアップの特別演出を行い、イベント来場者の満足度向上を図る

静岡市夜間景観整備計画(案)
II 駿府城公園エリア編

«展開・連携のイメージ»

- ・駿府城公園が「魅力的な夜間景観」、「夜の滞在を楽しめるエリア」として認知されることで、夜間帯のイベント活用を促し、イベント来場者による消費や宿泊による経済効果獲得を目指す。

10. 推進体制

本エリアにおける夜間景観照明整備は、整備対象物が市の管理物件であることから、市が主体となって実施します。

ソフト事業の実施については、様々な民間主体との連携を前提に、必要に応じて体制化を行い、実行力を持って推進していきます。

<想定される連携先>

- ・するが企画観光局
- ・ILoveしづおか協議会
- ・御伝鷹まちづくり株式会社
- ・駿府ウェイブ
- ・静岡市ホテル旅館協同組合
- ・駿府城公園観光文化施設管理運営共同事業体ほか

Ⅲ 日本平・清水エリア編

目 次

1. 前提整理.....	53
i) 対象エリア	53
ii) 本計画上の位置づけ(再掲)	55
iii) エリアの現況	56
2. 夜間景観整備の方向性.....	65
i) 与件整理.....	65
ii) 方向性	66
iii) 景観照明等の整備に関する考え方.....	66
3. コンセプトイメージの設定	67
4. エリア目標・評価指標(KPI)	67
5. 夜景の構成エリアの整理.....	68
i) 夜景の構成エリア	68
ii) 構成エリアごとの特徴・評価	69
iii) グランドデザイン・景観計画との関係整理	72
6. 照明整備対象の評価・検討	75
7. 整備工程	90
8. ソフト施策案と展開・連携のイメージ	91
9. 推進体制.....	92

静岡市夜間景観整備計画(案)

Ⅲ 日本平・清水エリア編

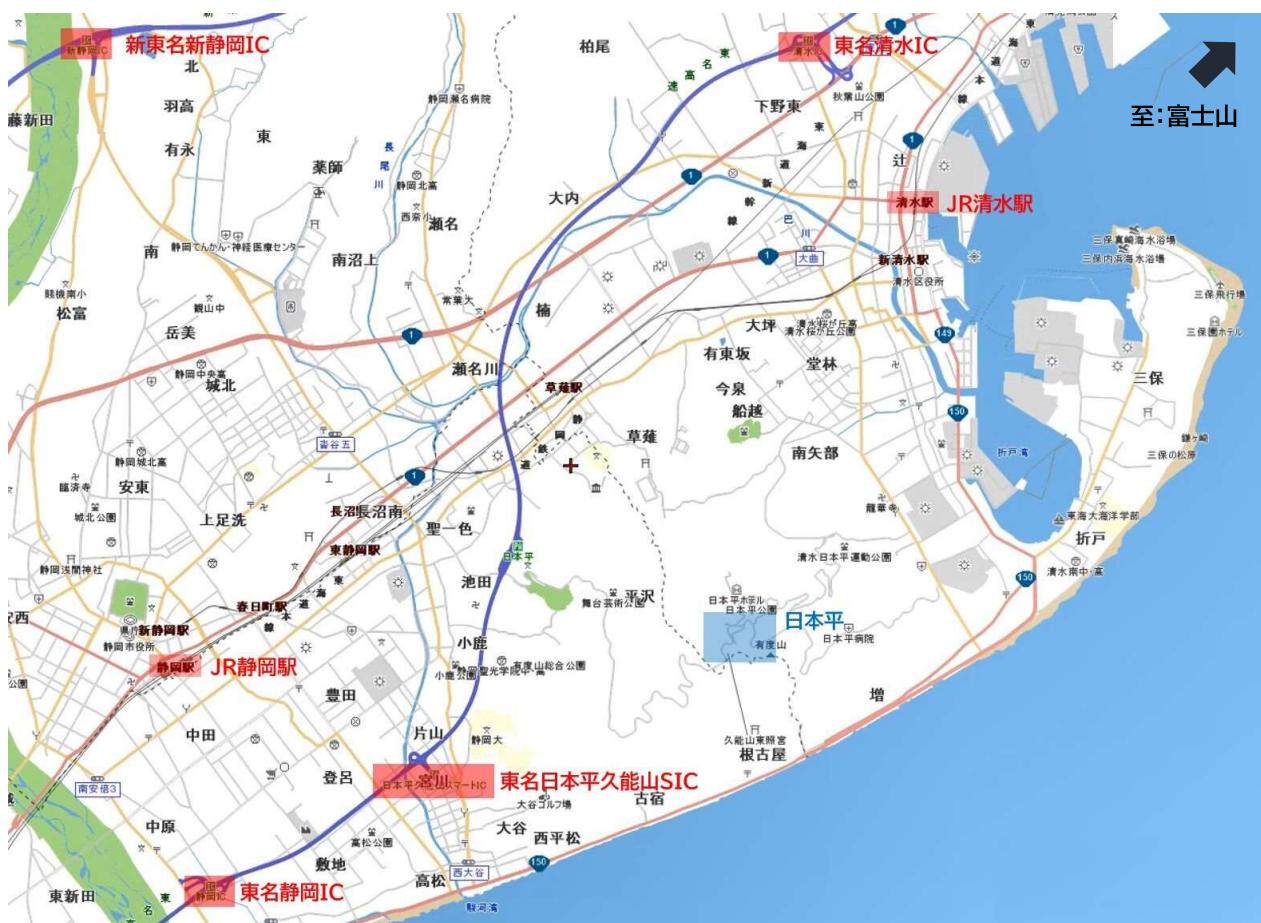
1. 前提整理

i) 対象エリア

夜間景観の整備を検討するエリアは、本市で初めて日本夜景遺産に認定された、本市を代表する夜景観賞地である「日本平山頂から望む、富士山を背景とした清水側エリア」及び、その視点場である「日本平公園(日本平公園基本計画区域)」とします。

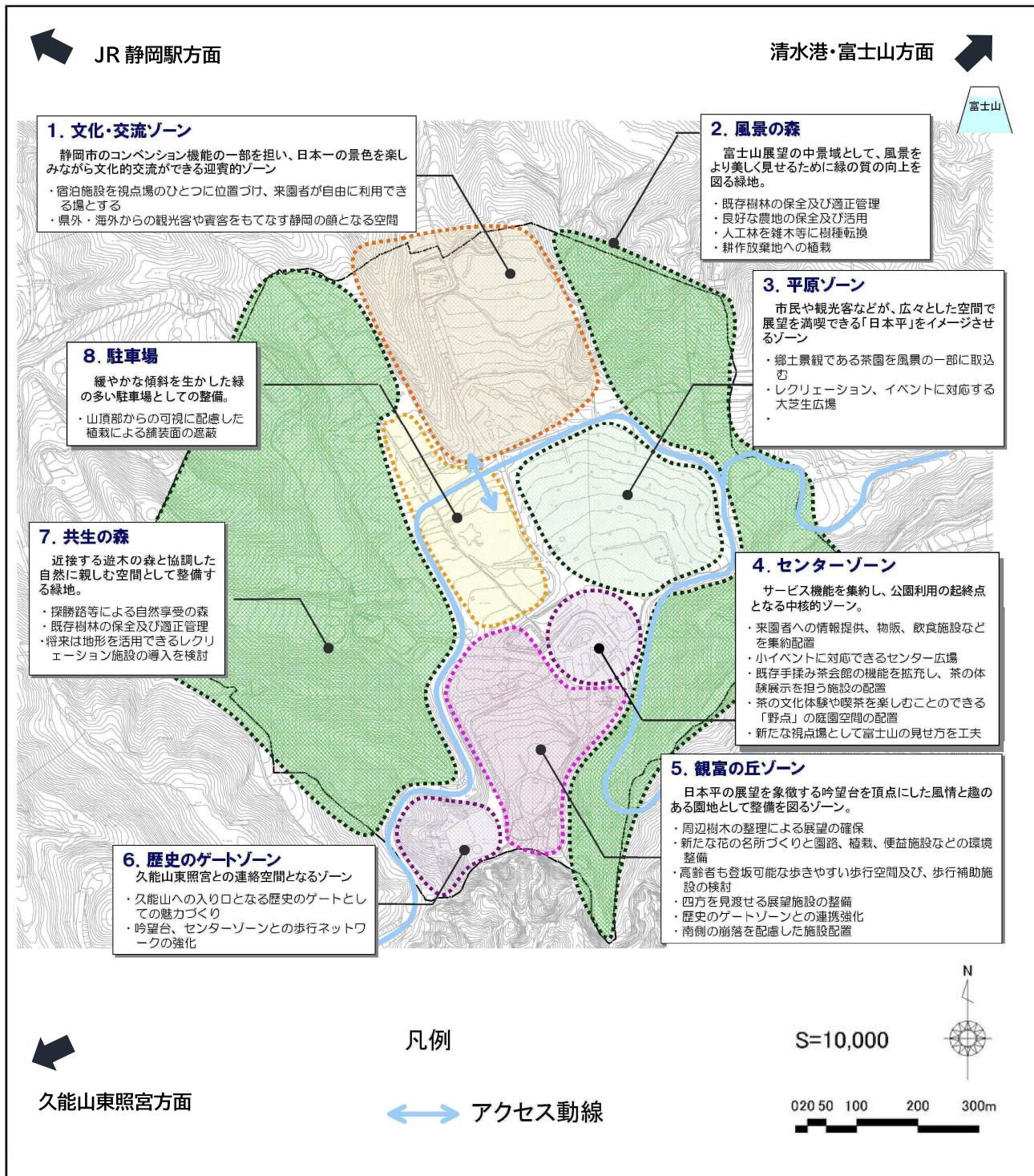
なお、実際の整備対象とする個別の地点や整備の考え方等については、検討エリア内の状況を詳細分析のうえ、本計画内で定めることとします。

【日本平:位置図】



静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

【日本平公園基本計画：土地利用方針】



ii) 本計画上の位置づけ(再掲)

対象エリア	日本平・清水エリア		
範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・日本平山頂から望む、富士山を背景とした清水側のエリア ・日本平公園(視点場) 		
主な 関連計画等	<p>グランドデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水みなとまちづくりグランドデザイン ・視点2:海洋交流(観光) … 景観整備:富士山眺望、水景、夜景 <p>静岡市景観計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水駅周辺ゾーン:都市景観促進地区 ・日の出地区、三保半島地区:重点地区 ・日本平:眺望地点(構造物、夜景) <p>指定・認定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本平:名勝(文化財保護法) ・富士山:世界文化遺産 ・清水港:日本三大美港 ・日本平、観覧車ドリームスカイ:日本夜景遺産 		
観光面の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本平は年間約200万人(令和元年度)が訪れる本市有数の観光スポット ・本市を代表する夜景観賞地でもある ・日本平公園の整備が進行中であり、更なる受入環境向上が見込まれる ・清水港周辺の開発が予定されており、更なる集客力向上が見込まれる 		
	<ul style="list-style-type: none"> → 日本平夜景の魅力を活用した観光誘客や内外に対するブランディング等を進め、夜間の誘客効果を創出しながら、市民や事業者の機運醸成が進んだ際の、夜景の磨き上げ手法等を検討していく。 		

«本計画に基づく整備事業の位置づけ:日本平・清水エリア»

- 本市を代表する夜景の眺望地点であるとともに、本市有数の観光スポットでもある。
- 一方、日本平の夜景を構成する要素は非常に多岐渡るため、夜景そのものを磨き上げていくためには、非常に長期間かつ多様な主体が参画した継続的な整備が必要となる。

→ 日本平夜景の魅力を活用した観光誘客や内外に対するブランディング等を進め、夜間の誘客効果を創出しながら、市民や事業者の機運醸成が進んだ際の、夜景の磨き上げ手法等を検討していく。

iii) エリアの現況

日本平の夜景を取り巻く現況について、視点場やアクセス面などから、以下の通り整理します。

総論

日本平山頂からは、日中は、茶畠越しに、清水区の街並みや日本三大美港である「清水港」、その背景に山並みや富士山を望むことができ、本市を象徴する素晴らしい景観を形成しています。

日没前後には、徐々に建物や港の灯りが点りはじめ、清水港のオレンジ色の灯りと夕焼けに染まる富士山とのコラボレーションは唯一無二のものです。

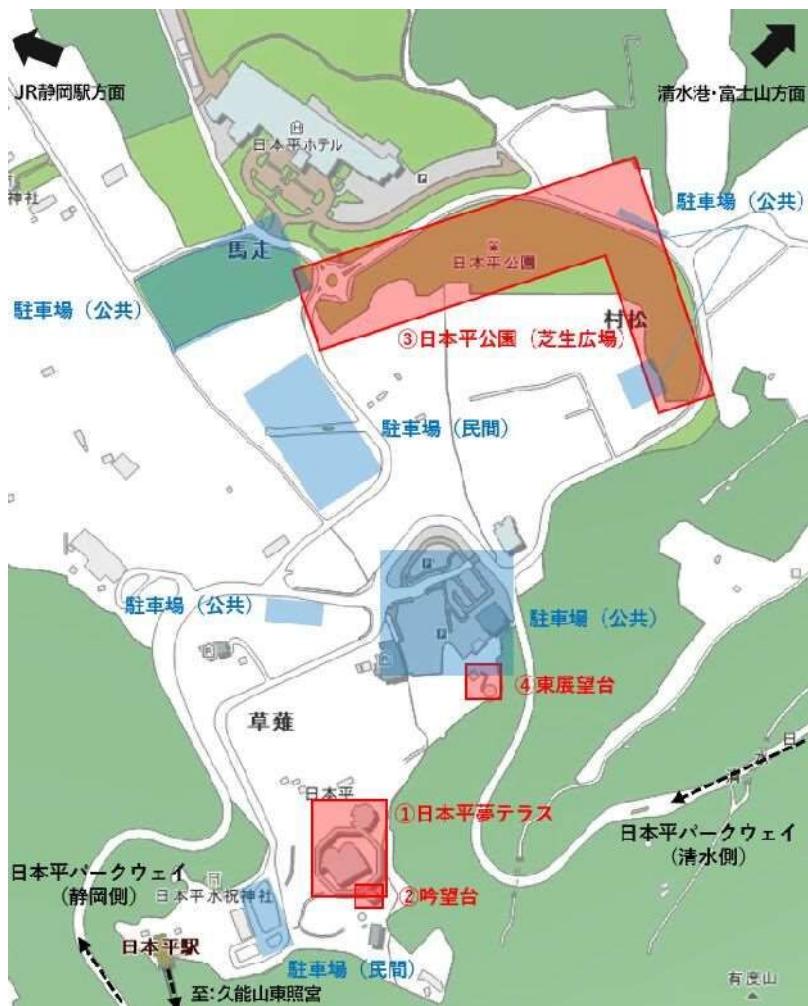
日没後、富士山の姿は闇に沈みますが、清水区の街並みと清水港の灯りが夜景の中心となり、光彩を放ちます。日没後も、気象条件が良好なら、写真等により富士山の姿を捉えることも可能なため、夜景写真的撮影スポットとしても有名で、条件によっては肉眼でも富士山の輪郭を望むことができます。

【日本平の夜景】



主な視点場

【視点場の位置関係】



① 日本平夢テラス・シンボル施設／展望回廊

入場可能時間	日～金曜日 9:00 ~ 17:00 土曜日 9:00 ~ 21:00
特長	<ul style="list-style-type: none"> 隈研吾建築都市設計事務所による、富士山を望む自然景観と調和した建造物 シンボル施設内には日本平の案内のための展示物やカフェスペースがあり、集客施設であるとともに、観光客の受入環境として機能している 展望回廊は360度の眺望を望める施設となっており、24時間入場が可能なため、夜景の視点場としても機能している
課題	<ul style="list-style-type: none"> シンボル施設の夜間営業は土曜日のみとなっている 日本平山頂が名勝指定(文化財保護法)を受けていることから、展望回廊の照明光度が低く設定されている 静岡県の管理施設であるため、連携のために密な調整が必要

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編

② 吟望台	
入場可能時間	通年 24時間
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本平夢テラス完成以前から公園内に存在する展望広場 ・展望回廊から直接接続しており、清水側の夜景を望むスポットとして認知されている ・吟望台付近にイベント利用を想定した電源(静岡市管理)が存在し、日本平觀光協会等と連携した夜間イベントでの活用が期待できる
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・清水側の夜景とは若干の距離がある ・視点場の照明機器は、日本平夢テラスからの漏れ灯りのみでやや暗い

③ 日本平公園(芝生広場)	
入場可能時間	通年 24時間
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本平公園整備事業の第1期整備区域として令和4年3月から供用開始 ・清水港や富士山側の最前部分に位置し、日本平の象徴的な景観を望むことができる ・近接する駐車場(6:00~22:00)も整備され、アクセス面も良好 ・公園整備計画に基づき、順次、「平原ゾーン」として芝生広場や体験施設等が整備されていく予定
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公園全体の整備完了は2030年度半ばを予定しているため、完成形をイメージした観光誘客、動線づくりが課題

④ 東展望台	
入場可能時間	通年 24時間
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・清水側の夜景を望むことができる展望施設。 ・日本平夢テラス完成前は主要な展望台だったが、現在は穴場的な視点場となっている。 ・令和3年9月に民間団体により「日本平はじまりの鐘」が寄贈され、来訪者による鐘撞きが可能。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県有駐車場からのアクセスは至近だが、展望台の位置が若干わかりづらい ・日本平夢テラスや芝生広場など、新たに整備された視点場とのすみ分け、ストーリー付け等が課題

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

アクセス

«自家用車»

① 日本平パークウェイ(静岡側)



・駿河区池田から日本平山頂を結ぶ道路(JR 静岡駅周辺から当該道路経由で 30 分弱)

・道中には日本平動物園や舞台芸術公園など、集客力のある立ち寄りスポットも存在

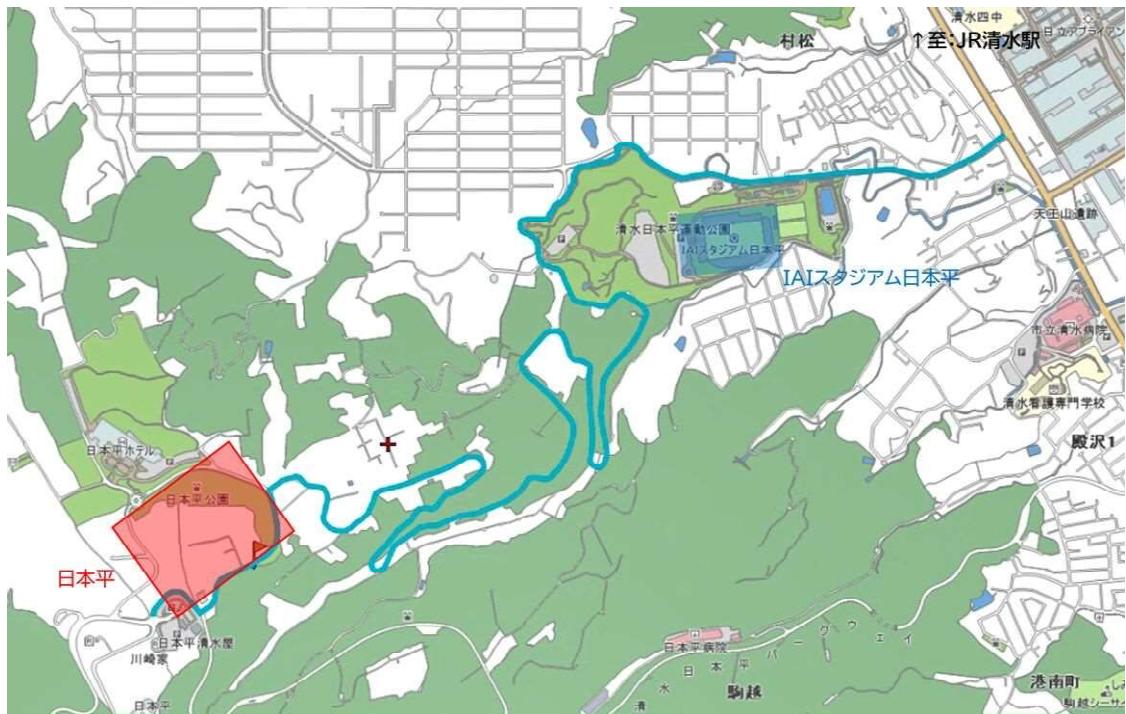
② 日本平パークウェイ(清水側)



・清水区殿沢から日本平山頂を結ぶ道路(JR 清水駅周辺から当該道路経由で 20 分弱)

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

③ 日本平さくら通り



- ・清水区宮加三から日本平山頂を結ぶ道路(清水駅周辺から当該道路経由で20分弱)
- ・日本平運動公園横を通過するため、プロサッカー開催時には多くの集客がある

④ 山頂駐車場



- ・市営駐車場や県営駐車場、民間施設駐車場が混在
- ・充分な駐車可能台数を備えているが、
GW、年末年始、山頂でのイベント開催時等には、
警備員の配置が必要となるほどの混雑状況となる
- ・公園整備に伴い駐車場の再整備が予定されている

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編

«公共交通» ※令和3年3月時点のダイヤ状況

① 日本平線(路線バス)

【平日】

(発)新静岡駅	(着)日本平ロープウェイ
8:30	9:19
9:30	10:18
10:30	11:18
11:20	12:08
12:20	13:08
13:20	14:08
14:20	15:08
15:20	16:07
16:25	17:13

(発)日本平ロープウェイ	(着)新静岡駅
9:30	10:16
10:30	11:16
11:30	12:16
12:30	13:16
13:30	14:17
14:30	15:17
15:30	16:17
16:30	17:18
17:30	18:20

【土曜・休日】

(発)新静岡駅	(着)日本平ロープウェイ
8:20	9:04
9:20	10:05
10:20	11:05
11:20	12:05
12:20	13:05
13:20	14:05
14:20	15:05
15:20	16:05
16:25	17:10

(発)日本平ロープウェイ	(着)新静岡駅
9:30	10:12
10:30	11:12
11:30	12:12
12:30	13:12
13:30	14:12
14:30	15:12
15:30	16:13
16:30	17:14
17:30	18:14

② 清水日本平線<日本平シャトル>(路線バス)

クルーズ船寄港時のみ運行していたが、令和3年3月時点、運行休止中。

※再開未定

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編

«その他»

- ・久能山下から石段で久能山東照宮を拝観し、日本平ロープウェイで山頂へアクセスすることも可能
(原則、夜間は拝観不可)

【久能山東照宮について】

- ・1,159段の石段により拝観
- ・拝観時間:9時00分～17時00分



【日本平ロープウェイについて】

- ・所要時間:片道5分 運行間隔:10分～15分間隔
- ・日本平駅 始発:9時10分 最終:16:45
- ・久能山駅 始発:9時30分 最終:17:00



- ・その他、山頂事業者が独自に運行する、施設利用者向けのシャトルバスあり。

«時間帯ごとの日本平山頂へのアクセス方法(総括)»

16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時台	22時～
<ul style="list-style-type: none">・自家用車・路線バス・タクシー・ロープウェイ	<ul style="list-style-type: none">・自家用車・路線バス・タクシー		<ul style="list-style-type: none">・自家用車・タクシー			<ul style="list-style-type: none">・自家用車・タクシー(駐車場縮小)

他都市の夜景スポットとの比較

全国の有名な夜景スポットと日本平との比較により、特徴や課題を、以下の通り整理します。

項目	稻佐山(長崎市)	藻岩山(札幌市)	皿倉山(北九州市)	日本平
夜景の特徴	・すり鉢状の地形 ・長崎港	・石狩平野 ・都市部の光量	・高標高からの夜景 ・工業地帯	・富士山 ・清水港
標高	333m	531m	622m	307m
夜間アクセス	ロープウェイ シャトルバス	ロープウェイ ケーブルカー	ケーブルカー スロープカー	民間ホテル 送迎バスのみ
山頂駐車場	山頂40台(有料)	なし	なし	山頂200台(無料)
夜間消費	展望台レストラン 山麓駅が市街地至近	展望台レストラン 山麓駅が市街地至近	展望台レストラン 山麓駅が市街地至近	夢テラス簡易カフェ 民間ホテル・レストラン
ツアーアイテム	バス・タクシーツアー	バス・タクシーツアー	バスツアー	夜間ツアーは無し

※比較対象として「日本新三大夜景都市」に認定されている3都市の代表的な夜景スポットを抽出



稻佐山



藻岩山



皿倉山



日本平

(比較結果)

«特徴»

- ・パノラマ型の夜景としては、300m台と、標高が低い部類となり、水平方向に見渡す様な眺望となる。
- ・標高が高い夜景スポットに比べ、比較的天候による眺望の影響を受けにくく、安定した眺望が望める。
- ・山頂駐車場が充実しているため、自家用車によるアクセスがしやすい。

«課題»

- ・公共交通による夜間アクセスが不十分なため、観光客にとってはアクセス面でハードルがある。
- ・山頂部に消費の受皿が少なく、夜間の集客による経済効果創出に課題がある。
- ・ツアーアイテムの開発が不十分なため、観光客に対して観光商品としての提供ができていない。

日本平・清水の夜景現況分析(総括)

【夜景観光地としてのポテンシャル】

- 本市で初めて“日本夜景遺産”に認定された夜景観賞地であり、特に、日中～日没前後～夜間と、時間とともに移り変わる雄大な景観は他都市の代表的な夜景観賞地にも匹敵する魅力を有する。
- 日中の訪問者数は年間 200 万人程度(※令和元年度実績)を数え、本市有数の入込客数を誇る。
- 夜間の訪問者数の詳細は把握されていないが、全国の有名な夜景観賞地に比べ、夜間の集客や観光商品化、夜景観賞地としての認知が不足していると予想される。

→ 夜景観光地としての認知は、現状、不足しているが、日中の集客力は十分なものをしており、“日本平夜景”のブランディングや認知向上、磨き上げによる、夜間の集客力強化・経済効果創出の期待が非常に大きい。

【夜景の特徴・ブランディングの方向性】

- 「清水港(特に興津埠頭)」の豊かなオレンジ色の光、世界文化遺産である「富士山」、は日本平夜景のブランディングを進める上で重要な構成要素となっている
- 比較的低標高の視点場であり、また、光源から視点場までの距離が遠いことから、市街地を水平方向に見渡すような景観となっており、道路など、まちの輪郭部分は山頂部から直接視認しにくい環境となっている。
- 近隣市街地から港湾部、工業部、丘陵部、遠方の市街地までを眺望するスポットであるため、夜景を構成する要素は、自然物から人工物、更には、用途・構造・所有者等が多岐に渡り混在している。

→ “日本平夜景”のブランディング・磨き上げに向けては、既にある魅力や特長を活用したストーリー付けを行うとともに、そうしたストーリーを補強し、多様な主体の賛同・参画を促すような磨き上げを行うことが効果的。

【改善点】

- 夜間の公共交通不足など、アクセス面で改善すべき課題がある。
- 山頂部における夜間の消費の受け皿が限定的。

→ 市街地との連携も含め、夜間の消費の受け皿を構築し、夜間の集客を通じた経済効果創出の仕組みづくりを行うことが不可欠。

2. 夜間景観整備の方向性

本計画に基づく、夜間景観整備の方向性について、以下の通り整理します。

i) 与件整理

- ・日本平・清水の夜景の構成要素は多岐にわたり、面的な夜景の魅力向上に向けては、民間や公共部門の多主体による長期的かつ主体的な参画が必要。
- ・日本平・清水の夜景は、日本平が有する優れた眺望環境や清水港を中心とした産業構造を背景に、既に“日本夜景遺産”に認定されるなど、見事な夜間景観を形成している一方で、観光客や住民、地元事業者からの認知については途上の部分が多く、「日本平＝夜景」、さらには、「静岡市＝夜景」という認知向上(ブランディング)に向けた取組が欠かせない。
- ・単に夜間景観の磨き上げを進めるだけではなく、実際に人を“惹きつけ”、“楽しませ”、“ファンにする”ような、ソフト的な活用を前提としたストーリーづくりが必要。

(参考:長崎市の斜面市街地の夜景)

夜景都市として有名な長崎市では、長崎港を囲む丘陵地に所在する夜景スポット(稻佐山／鍋冠山等)から望む、「すり鉢状」の地形が生み出す立体感のある夜景を売りとしていますが、急速な人口減少や高齢化により、斜面市街地の空き家問題が深刻化しており、徐々に、その立体感が損なわれる事が危惧されています。

遠景で望む夜景は、市街地の灯りや、工業地帯の照明、街路灯・道路照明などにより形成され、その土地の社会活動の写し鏡とも言え、地域社会の特徴や課題を反映して変化していくものです。

純粋に観光的な演出のためだけに面的な整備を進めることには限界がありますが、一方で、これを地域に経済効果をもたらす観光資源として捉え直し、多様な主体が長期的な目線で賛同・参画することで、手戻りのない整備を進め、観光客による消費の獲得と地域経済の好循環を通じ、持続的な観光地経営に繋げていくことも可能と考えられます。

【「環長崎港夜間景観向上基本計画」より抜粋】



特長

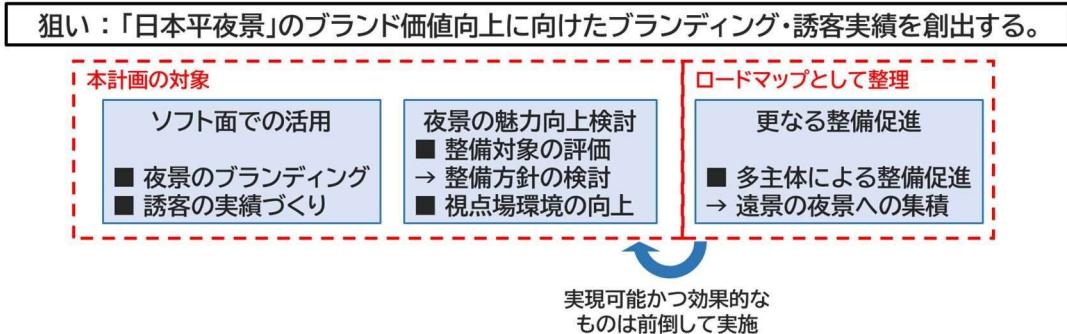
- ・市街地の灯りを真正面から広がるパノラマで眺めることができる。
- ・市街地の灯りの前に、長崎港や浦上川といった水面が横に広がっており、港町らしい水際線を感じやすい。

課題

- 斜面市街地の灯りが夜景に直結するが、近年、空き家や空き地が増加している。
- 水面に映り込む光の要素が少ない。

ii) 方向性

上記与件や「共通事項」に定める取組のフェーズを踏まえ、日本平・清水エリアにおける夜間景観整備の方向性を以下の通り整理します。



まずは、視点場である日本平山頂の夜間の観光客の滞在環境向上のための整備を検討します。

日本平夜景の美しさは既に一定の評価を得ており、観光誘客の素材として十分活用が期待できること、遠景の夜景磨き上げには多主体が参画した長大な取組が必要となることを踏まえ、本計画では、観光面でのソフト施策を優先して実施し、“日本平の夜景”“静岡の夜景”的なブランディングと誘客の実績づくりを進めることとします。

また、併せて市民や事業者の機運醸成が進んだ際の、夜景の磨き上げ手法等を検討することで、地域内での機運醸成に繋げ、将来の多主体による主体的な整備が促進されることを目指します。

iii) 景観照明等の整備に関する考え方

本計画期間では、観光面でのソフト施策を優先して実施していくますが、景観照明の整備等については、以下の通り整理します。

① 中近景での景観照明整備(ライトアップ等)

- ・日本平夜景を構成するエリア(清水港エリア等)内における個別の照明整備対象について、整備対象物としての評価を行います。
- ・重要度の高い施設については、施設管理者や関連する事業等との整合を図り、観光誘客上の高い効果が期待される場合に整備を検討していきます。

② 視点場環境整備

- ・観光面でのソフト施策により、夜の日本平山頂への誘客を図るため、夜間の視点場環境向上のための施策を実施します。
- ・視点場自体の魅力向上のため、日本平山頂における演出照明の整備や照明イベント等についても検討していきます。

③ 遠景(日本平全体)夜景の整備

- ・夜間の誘客の結果、市民や事業者の機運醸成が進んだ際には、夜景を構成する各施設における照明整備に対して、順次、遠景の夜景磨き上げに寄与する照明整備を促していきます。

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編

3. コンセプトイメージの設定

本エリアにおける景観照明にはどのようなものが望ましいか、コンセプトイメージとして整理します。

コンセプトイメージが、より印象的で拡がりのある内容となるよう、各々の特色を端的に表すコンセプトフレーズを以下のように設定します。

- ① 清水港：富士の裾野・観光と産業の港夜景
- ② 日本平：世界屈指・富士と港の大夕夜景

4. エリア目標・評価指標(KPI)

本計画が、夜間帯の観光振興を通じた経済効果の実績創出と市民や事業者の機運醸成に立脚していることから、エリアの目標と成果指標としては、短期的な成果指標を中心とし、以下のとおり定めます。

※₁ 最終目標値は、本計画の最終年度である令和12年度を基準とする

※₃ 現状値は、新型コロナウィルス感染症の影響が本格化する直前の令和元年度を基準としている

(KGI:共通事項)

目指す姿	参考値(R1:コロナ前)	現状値	中間目標値(R8)	最終目標値(R12)
市内延べ宿泊客数	2,005千人泊/年	1,628千人泊/年(R3)	2,122千人泊/年	2,166千人泊/年
観光消費額単価	—	«日帰り» 4,413円/人 «宿泊» 27,094円/人 (R4)	«日帰り» 4,634円/人 «宿泊» 28,449円/人	«日帰り» 4,854円/人 «宿泊» 29,803円/人

※「第4次静岡市総合計画」の目標に基づき、夜間帯の観光振興によって寄与が期待される数値目標を、「目指す姿」として設定。

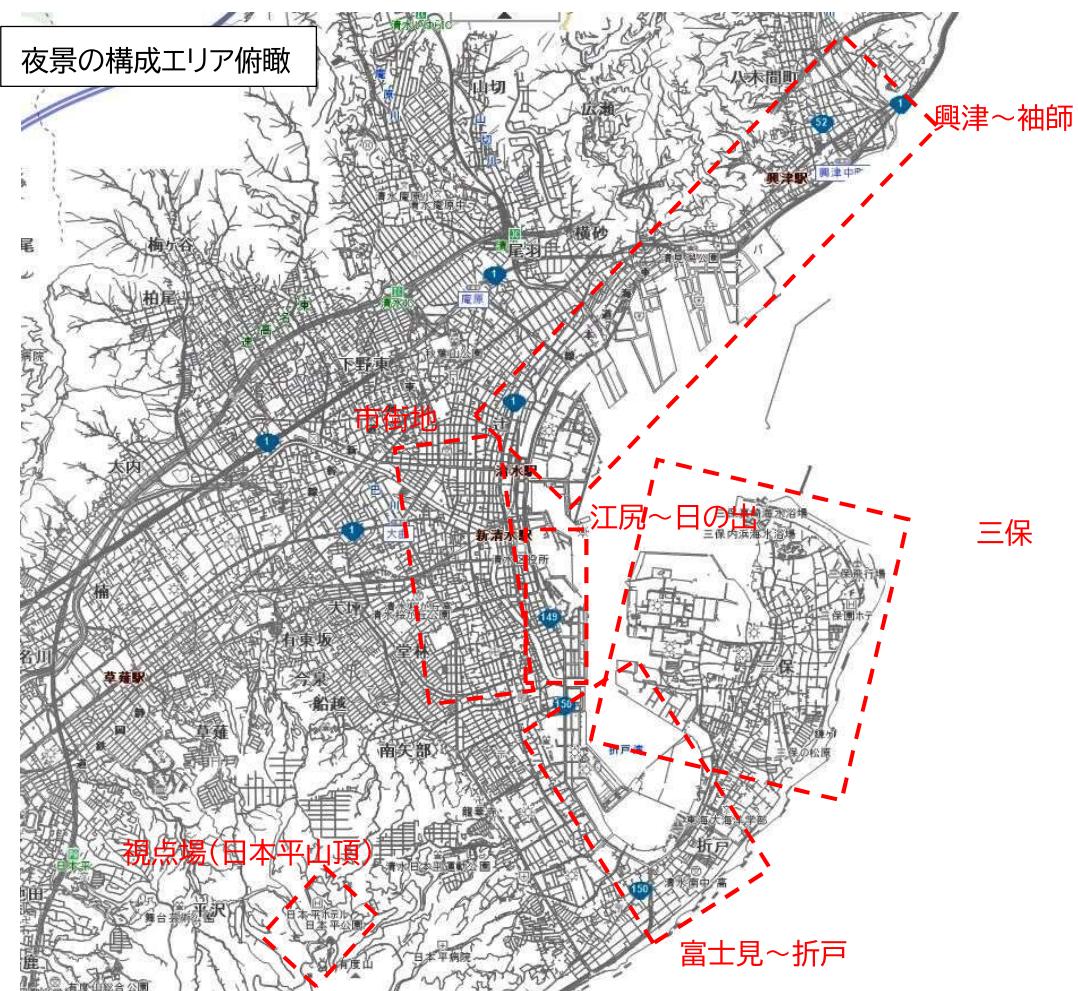
※「市内延べ宿泊客数」は「第4次静岡市総合計画」における「観光交流客数」の増加目標を基に設定。

(KPI:エリア目標・評価指標)

評価指標	現状値(R3)	中間目標値(R8)	最終目標値(R12)
日本夜景遺産としての認知度	37.5%	50.0%	60.0%
個別整備の実施方針(視点場を含む)	—	決 定	(方針決定による整備の実施)

5. 夜景の構成エリアの整理

i) 夜景の構成エリア



ii) 構成エリアごとの特徴・評価

位置づけ	構成エリア	特徴
背景部分 (整備対象外)	富士山	日本平夜景のシンボル。 特に、夕方から日没までの間に 抜群の存在感。
	丘陵	清水区の街並みから富士山までの間の レイヤーとなり立体感を与えていた。 中腹に鉄塔があり障害灯が見られる。
	由比・蒲原	海岸線沿いのまち灯りが見えるが、 距離が遠く視認しにくい。
	富士・富士宮市街地	麓から富士山に向けて灯りが立ち上がり 立体感が見られる。
	伊豆方面	海岸線に沿って灯りが見られ、 スケール感を与えていたが、 灯りのボリュームは少ない。
港湾部 (整備検討)	港湾部 (興津～袖師)	<p>【特徴】 視線に対して水平方向に並ぶ オレンジ色のナトリウム灯が 水面に映り込み、非常に存在感がある。 ガントリークレーン群など、 象徴的な建造物の造形が確認できる。 袖師ふ頭は、視線に対して 平行方向に伸びているため、 照明や建造物の造形が識別しづらい。</p> <p>【評価】 日本平夜景を構成する重要な要素。 産業用の照明設備がほとんどのため、 演出用照明の新設は難しいと思われる。 照明設備更新のタイミングで 一定の指向性を促すことができるか。</p>

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

	<p>港湾施設 (江尻～日の出)</p> 	<p>【特徴】 比較的高層の建物が多いため、 港湾施設が建物で隠れるが 建物の造形や漏れ灯が確認できる。 ドリームプラザ観覧車など 象徴的な建造物の造形が確認できる。</p> <p>【評価】 施設群がライトアップされる ことで遠景に寄与する可能性がある。 観光面での集客力があるエリアのため、 中近景の整備により、 夜間のまちあるき促進に期待できる。</p>
	<p>港湾部 (富士見～折戸～三保)</p> 	<p>【特徴】 日本平夜景の手前部分を構成。 照明機器の設置が少なく 灯りの絶対量が減少する。 視点場によっては 木立等に阻まれて視認できない。</p> <p>【評価】 灯りを足すことにより、 変化を感じやすいと考えられるエリア。 一方で、夜間の消費の受け皿が少なく、 ソフト的な活用が見込みにくい。</p>
市街地 (整備検討)	<p>社屋・工場・商業施設・高層住宅</p> 	<p>【特徴】 巴川左岸に比較的高層の建物が集積。 屋内灯の漏れ灯や周辺の照明に 照らし出された建物の造形が 市街地の主な夜景を構成。</p> <p>【評価】 シンボリックな建造物は少ないが、 市街地夜景のベースを構成している。 所有者も多岐にわたり、 個別の照明整備による短期的な 効果創出は見込みにくいが、 中長期的に参画が得られれば、 夜景の魅力の底上げにつながるか。</p>

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

	<p>低層住宅</p> 	<p>【特徴】</p> <p>巴川右岸に比較的低層の住宅が集積。</p> <p>屋内灯の漏れ灯は最小限。</p> <p>市街地の暗めの夜景を構成。</p> <p>【評価】</p> <p>日本平からはやや視認しづらい部分。</p> <p>市民キャンペーンなど、</p> <p>ソフト的な連携可能性が模索できるか。</p>
	<p>道路・河川</p>	<p>【特徴】</p> <p>眺望の角度が浅いため</p> <p>道路や河川そのものは望みにくい。</p> <p>道路照明や街路灯が</p> <p>部分的に確認できる。</p> <p>【評価】</p> <p>遠景への寄与度は精査が必要だが、</p> <p>中近景の整備によって</p> <p>観光客の夜のまちあるきや</p> <p>地域内での機運醸成を促すには効果的。</p>

iii) グランドデザイン・景観計画との関係整理

清水みなとまちづくりグランドデザイン

グランドデザイン内では、清水港及び周辺の将来像を展望し推進する10の視点として、「海洋経済」「海洋交流」「海洋研究」「海洋生活」「自然・歴史・文化」「回遊動線と心地よい場所」「先端技術の実装・活用」「防災減災と環境」「多様性と循環」「協働・連携・共創」が掲げられています。

夜間景観整備の推進にあたっては、「海洋交流」の視点の中に、日本平を含む「周遊観光」の目線や、「景観整備:富士山眺望、水景、夜景」という目線が含まれていることを踏まえつつ、他の視点を十分に踏まえた取組が必要となります。

また、地域内で効果的・効率的な整備が進むよう、グランドデザイン内で「特に注力」する内容として整理されている、「リーディングプロジェクト」との連携を意識して、整備対象等を選定します。

【「リーディングプロジェクト」の設定地区】

設定地区
清水駅東口・江尻地区
日の出・巴川河口地区
貝島・塚間地区
折戸湾地区
旧興津宿・新興津地区
三保海岸地区

静岡市景観計画

静岡市景観計画では、「清水駅周辺ゾーン」が都市拠点に相応しい良好な景観形成を目指す「都市景観促進地区」に、「日の出地区」「三保半島地区」が重点地区に、「日本平」が「眺望地点」に指定され、それ以下通り定められています。(抜粋)

夜間景観の整備にあたっては、ここに定められた目標・方針に則って検討を進めることとします。

«都市景観促進地区：清水駅周辺ゾーン»

■景観形成の基本テーマ

海洋文化拠点の魅力を高めるウォーターフロントの景観

«建築物の方針»

- 自然と調和し海に向かった都市の顔づくり
- 歴史を活かした港町らしい個性豊かな景観形成
- 明るく落ち着いた海辺の通りの景観形成
- 個性を活かした商店街の景観形成
- 巴川や旧東海道沿いの良好な景観形成
- 多くの人が集まり恒常的な賑わいを生む景観形成
- 周辺の景観と調和した外観の維持

«景観形成基準» ※「まち並みの連続性や周辺地区との関係に配慮する」より抜粋

地域環境を活かした夜間景観を形成する

- 暖かみのある色彩の光源により、植栽や外壁、店舗の看板などをライトアップすることで、魅力ある夜間景観の演出に努める。
- 周囲の光環境に配慮し、激しく点滅するものや光源が露出する照明など、不快なまぶしさを与える光源は使用しない。
- 商業施設では、地域の特性を活かした賑わいの創出、各店舗の個性が感じられるような演出に努める。
- 水辺の建築物は、水面への映り込みを意識した照明計画により、魅力的な夜景の演出に努める。

«重点地区:日の出地区» ※重点地区「三保半島地区」は道路区域を主な対象としたものため省略

1. 景観形成の目標及び方針

本地区は、清水港の港湾機能の一翼を担い、水辺の近接性や富士山への眺望等を活かした、港町の景観形成のシンボル的な役割を担う重要な地区です。このため、清水港港湾計画や、清水港・みなと色彩計画等の関連計画との連携や整合性を図りながら、景観形成に取り組むこととします。

1) 景観形成の目標

本地区は、清水港のほぼ中央部に位置し、港湾機能の一翼を担いつつ、商業・業務施設が集積し、賑わいのある景観が形成された地区です。また、清水港の歴史や文化、海辺への近接性を活かし、公園や広場などのオープンスペースが形成され、多くの市民に親しまれている地区です。このような地区の特性を踏まえ、景観形成の目標を次の3点とします。

目標①:海の玄関口にふさわしく、港町のシンボルとなる景観形成

目標②:広域交流拠点として、賑わいと風格があり、活力あふれる景観形成

目標③:清水都心に近接したウォーターフロントとして、親しみや潤いが感じられる景観形成

2) 景観形成の方針

⑧夜間景観に関する方針

海や港の雰囲気を高め、魅力的な夜間景観の演出となるように努めます。

2. 景観形成基準

2) 工作物等の形態意匠

⑤照明

建築物や植栽、ストリートファニチャー等をライトアップする場合は、隣接する施設相互の照明に配慮し、効果的な夜間景観の演出に努める。

«眺望地点:日本平(建造物の眺望地点、夜景がきれいな眺望地点)»

1. 眺望景観の保全・活用の基本的考え方

本市には、南アルプスから市街地周辺の緑豊かな山地、安倍川や興津川、富士川、駿河湾を望む海岸など、素晴らしい自然景観があり、それらとまとまりある市街地、変化に富んだ地形の組み合せによって、富士山をはじめとする静岡らしい美しい眺望を楽しむことができる場所が市内に多数あります。こうした静岡らしさを感じさせる優れた眺望景観は市・市民・事業者の共通の財産であることから、協力して維持・保全し、さらに印象を高めることが重要となります。

そこで、市内の優れた景観を眺望できる場所を選定し、静岡市景観条例に基づく「地域景観資源(眺望地点)」として指定し、眺望地点毎に保全・活用をしていきます。

6. 照明整備対象の評価・検討

2-iii)で定めた「整備対象選定の考え方」や、「清水みなとまちづくりグランドデザイン」「静岡市景観計画」との連携・整合などをふまえて、魅力ある夜間景観を創出するのにふさわしい照明整備対象を選定するために、景観調査を実施しました。

文献調査、現地確認、関係者ヒアリングなどにより、景観照明の対象として魅力的であると考えられるものをリストアップし、景観照明デザインの観点から以下の5つの評価指針に基づき評価を行いました。

- | | |
|--------------|--|
| 1. 個性 | 立地、周辺環境、社会、風土など、静岡市としての個性につながる光と成り得るか。 |
| 2. 歴史・文化 | 歴史的建築・名所・旧跡や文化的な公共建築など、歴史・文化的に価値があるか。 |
| 3. 景観性 | 規模や意匠など、そのもの自体の特性が景観照明の対象として優れているか。 |
| 4. 視点場 | より多くの人が目にすることができる夜間景観を楽しめる場所のある対象か。 |
| 5. 既存景観照明 | 既存景観照明のない方が、現状との違いが分かりやすく整備効果が高い。 |
| 6. 日本平夜景への寄与 | 日本平から望む夜景の1要素として、寄与できる対象か。 |

景観照明デザイン上の評価に基づいて、「夜間景観上の重要度」として5段階に整理しました。

この総合評価は、対象に景観照明が灯されたときに、静岡市としての魅力ある夜間景観の充実にどれだけ寄与しうるものであるかという観点から行われているため、景観照明を実施した際の効果の高さを判断する指標、および景観照明を実施する優先順位を判断する目安ともなるものです。

- 「夜間景観上の重要度」 A: 効果が非常に高い対象
B: 効果が高い対象
C: 効果がある対象
D: 効果が期待できる対象
E: 上記以外の対象

《視点場について》

景観照明の対象としては、どこから見えるのかが重要なポイントとなります。対象を見ることのできる場所、いわゆる「視点場」によって見え方や周囲環境などが異なり、夜間景観としての印象も大きく左右されます。

優れた視点場は、以下のような条件を満たすことが必要です。

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| ① 位置 | 遠すぎたり建物の陰になっていないなど、対象がはっきりと見える場所である。 |
| ② アクセス | 人々が容易にいくことのできる場所である。 |
| ③ 場の環境 | 夜間でも安全に景観を楽しめる状況である。 |
| ④ 景観 | 背景に眩しい光が無いなど、周囲の景観が対象の景観を損なっていない。 |

一般に視点場が多い(より広範囲から見える)方がよい対象であるとされますが、限られた視点場しかない対象であっても、その景観が特に印象深いものである場合は、独特の夜間景観として街の個性に繋がることが期待できます。

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

日本平・清水エリア対象一覧

NO.	名 称	評 価						夜間景観上の 重要度
		個性	歴史 文化	景観性	視点場	既存 景観 照明	日本平 夜景へ の寄与	
25	日本平夢テラス	高	高	高	中	-	-	C
26	山頂吟望台	高	中	高	中	-	-	D
27	東展望台	高	中	高	中	-	-	D
28	日本平公園(中腹部)	高	高	特高	中	-	-	B
29	日本平公園(最前部)	特高	高	特高	中	-	-	A
30	久能山東照宮	特高	高	高	中	-	-	B
31	エスパルスドリームプラザ	中	中	高	多	-	中	C
32	テルファークレーン	特高	高	中	中	-	低	C
33	国際クルーズ船ターミナル	中	高	高	中	-	中	C
34	海洋・地球総合ミュージアム	中	高	高	中	-	中	C
35	石造倉庫群	高	高	高	中	-	低	C
36	羽衣橋	高	中	高	多	-	低	C
37	港橋	中	高	特高	多	-	低	B
38	富士見橋	中	中	高	多	-	低	D
39	八千代橋	高	中	高	多	-	低	C
40	萬世橋	高	中	高	多	-	低	C
41	千歳橋	中	中	中	多	-	低	E
42	静岡鉄道橋	中	中	中	多	-	低	E
43	JR 橋	中	中	高	多	-	低	D
44	大正橋	中	中	中	多	-	低	E
45	柳橋	中	中	中	多	-	低	E
46	稚児橋	中	中	高	多	-	低	D
47	巴川橋	中	中	中	多	-	低	E
48	渋川橋	中	中	高	多	-	低	D
49	能島橋	中	中	高	多	-	低	D
50	第一堀込橋	中	中	高	多	-	低	D
51	長崎橋	中	中	高	多	-	低	D
52	久保橋	中	中	中	多	-	低	E
53	三保松原	特高	高	中	中	-	-	C
54	神の道	特高	高	高	中	有	-	C

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

日本平・清水エリア対象写真



25 日本平夢テラス



26 山頂吟望台



27 東展望台



28 日本平公園



29 日本平ホテル前庭



30 久能山東照宮

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編



31 エスパルスドリームプラザ



32 テルファークレーン



33 国際クルーズ船ターミナル



34 海洋・地球総合ミュージアム(予定地)



35 石造倉庫群



36 羽衣橋

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編



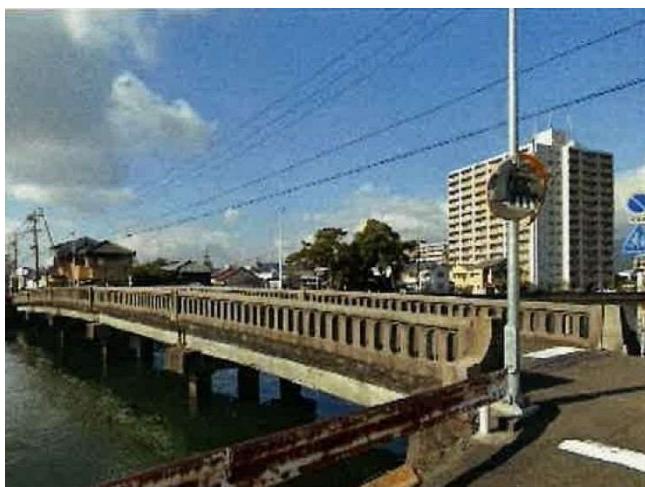
37 港橋



38 富士見橋



39 八千代橋



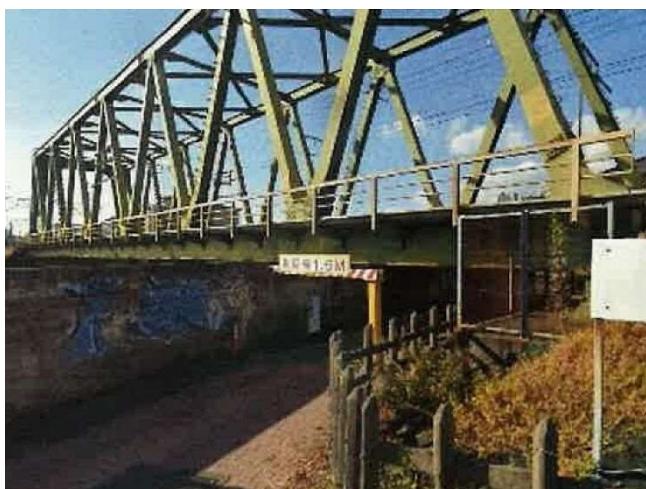
40 萬世橋



41 千歳橋



42 静岡鉄道橋



43 JR 橋



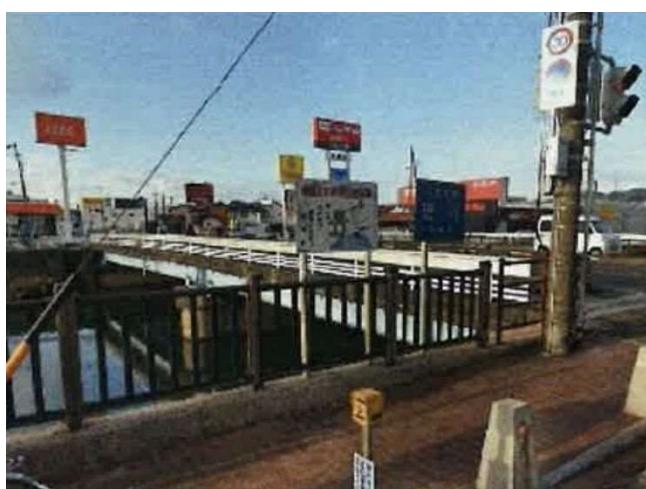
44 大正橋



45 柳橋



46 稚児橋



47 巴川橋



48 渋川橋

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編



49 能島橋



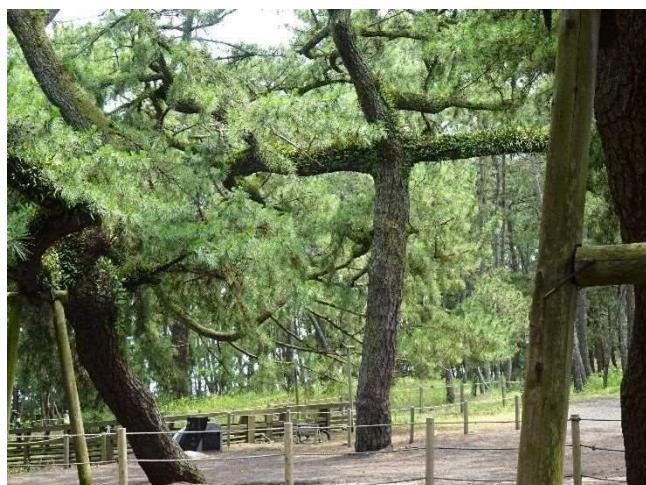
50 第一堀込橋



51 長崎橋



52 久保橋



53 三保松原



54 神の道

静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編

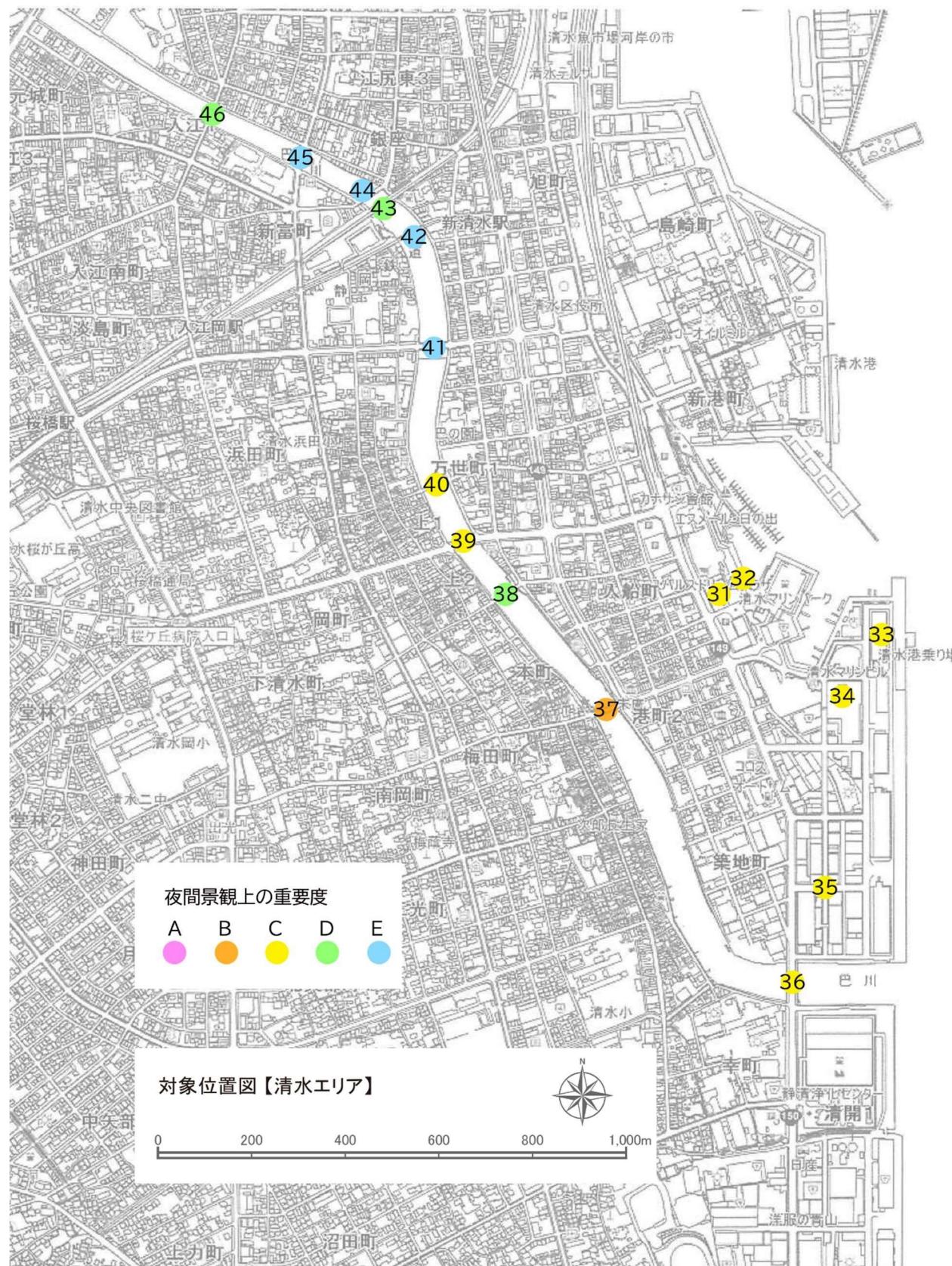
対象位置図【日本平エリア】



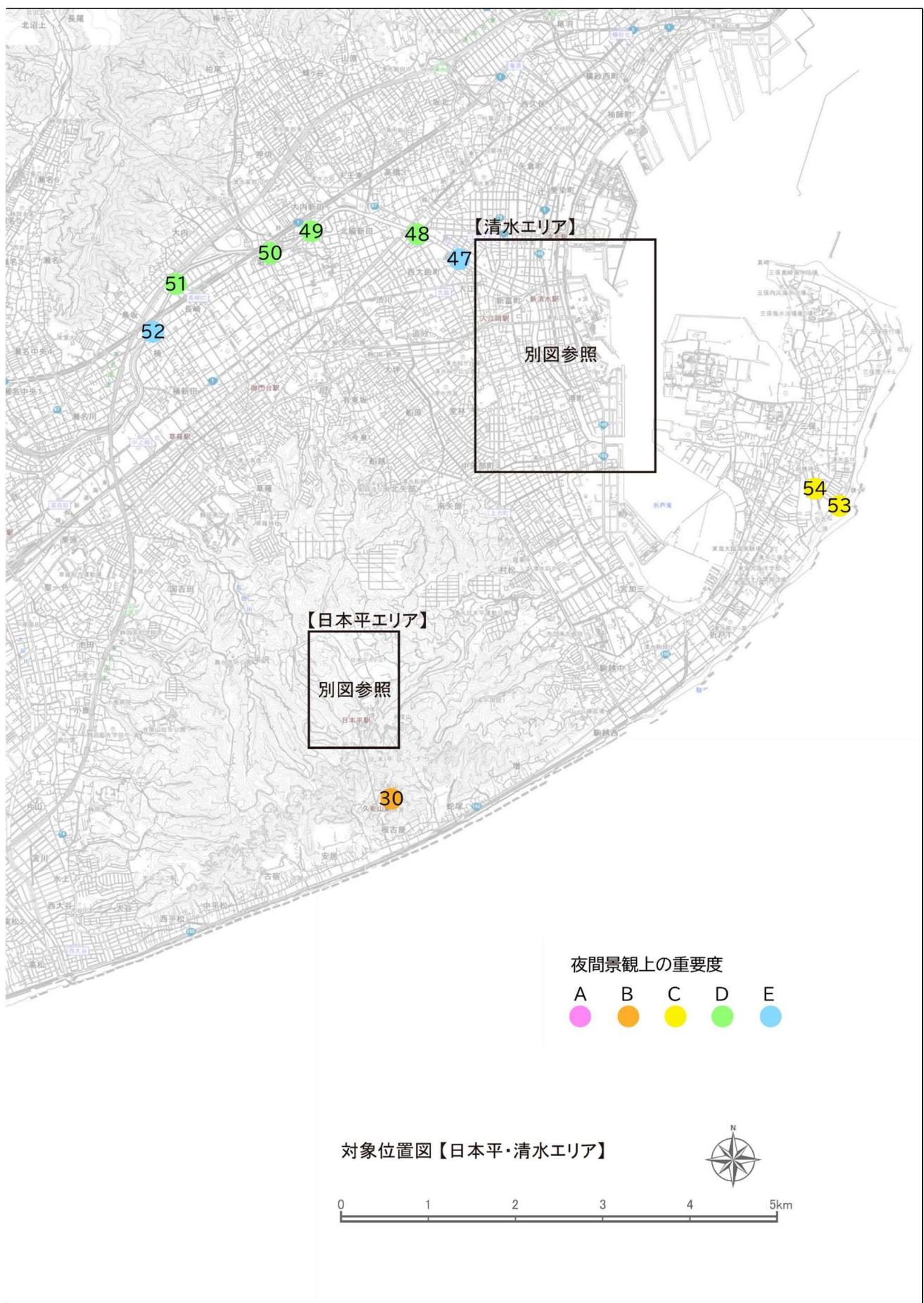
0 100 200 300 400 500m



静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編



静岡市夜間景観整備計画(案)
III 日本平・清水エリア編



日本平

日本平夢テラス 山頂吟望台 東展望台 日本平公園 日本平ホテル前庭
久能山東照宮

«概要»

- ・日本平夜景の視点場として景観計画上も眺望地点に指定されている。
- ・今後長期間にわたり、センター施設や広大な芝生広場、駐車場の再整備等を含めた、日本平公園の整備が予定されており、既に、清水側の最前となる芝生広場は供用が開始されている。
- ・既に著名な観光スポットである久能山東照宮がある。

«夜間の現況・課題»

- ・既に夜景スポットとして認知があり、いくつかの視点場が設定されている。
- ・アクセス面の課題や、山頂施設の多くが夜間に閉館してしまうこともあり、日中に比べて夜間訪問者は大きく減少するが、民間主導の夜間イベント開催や、山頂事業者によるレストランの新規オープンなど、夜間の受け皿が広がりつつある。
- ・足元灯が整備されており、夜間訪問は可能だが、諸法令の規制により明度が抑えられている。

【芝生広場足元灯】



【日本平夢テラス・展望回廊(手すり照明)】



«観光面での夜間活用»

- ・山頂事業者等と連携し、夜間のサービス提供を行うことで夜間観光の振興が期待できる。
- ・山頂に視点場が点在しているが、特定の視点場を主要な眺望地点としてストーリー付けしていくことで、来訪者の動機づけが期待できる。
- ・久能山東照宮との効果的な連携で、日本平全体としての演出が期待できる。

«評価»

- 遠景の夜景そのものの磨き上げは中長期的な取組となるが、視点場環境の改善は、ある程度短期的に実現可能かつ、“日本平夜景”的プランディングに直結することが期待される。
- 公園整備に併せて周辺事業者の機運も高まりつつあるため、連携した観光コンテンツ化が期待できる。

«整備方向性»

- 既にある夜景の素晴らしさと競合しないような、“夜景を楽しむスポット”としてストーリー付ける演出面の照明整備を検討する。
- 諸法令による規制への適合は十分に検討を行い、公園整備計画と時機・内容の整合を図りながら整備を検討していく。

日の出ふ頭周辺

エスパルスドリームプラザ	テルファークレーン	国際クルーズ船ターミナル
海洋・地球総合ミュージアム	石造倉庫群	

«概要»

- 清水港の歴史的中心部であるとともに、エスパルスドリームプラザや国際クルーズ船ターミナルなどが所在し、エリア内最大の誘客・交流の拠点である。
- 今後、「海洋・地球総合ミュージアム(R8年4月オープン予定)」の整備をはじめ、石造倉庫群、県営上屋の利用転換など、公共整備が予定されており、これに呼応した民間事業者による施設改修等も予定されている。

«夜間の現況・課題»

- ドリームプラザを中心とした施設の照明や外灯が賑やかな景観を形成している。
- マリンパーク内のテルファークレーンは、登録有形文化財にも指定されており、景観計画上も、「景観重要建造物」にも指定されている。
- ターミナル周辺は、照明が整備されているものの夜間の人通りはないが、今後、マリンパークとともに交流空間として整備された際には夜間の活用も期待される。



«観光面での夜間活用»

- 商業施設と隣接し、清水の中心市街地とのアクセスも良好なため、夜間の消費の受け皿が十分あり、観光誘客による経済効果創出が期待できる。
- 冬季には民間主導でイルミネーションイベントが開催されていることもあり、夜間の集客力がさらに増している。
- 夏季の花火大会等の際には、夜間に多くの人出があり、花火観賞用のナイトクルーズ等のイベントも実施されている。

«評価»

- 清水港における集客拠点であり、夜間景観整備による露出獲得や、ソフト施策との連携による経済効果創出が期待できる。
- 日本平からは、部分的に建造物が望めるため、エリア内の景観整備が面的に進むことで、遠景の夜景への寄与も期待される。

«整備方向性»

- 段階的に整備されていく港湾の整備計画と足並みを揃えながら、夜間景観整備を検討する。
- 整備にあたっては、交流の拠点となる「海側」と、遠景に寄与する「日本平側」それぞれの見え方を考慮し内容を検討していく。

巴川沿岸

巴川橋梁群(港橋など)

«概要»

- ・ 清水区の中心市街地を流れるシンボル的な河川(一級河川)。
- ・ 巴川を境に右岸側は住宅街が中心となり、左岸側は商工業施設や社屋等が中心となっている。
- ・ 公園や護岸上の散策路・ベンチも整備されており、水辺空間を楽しむ工夫がなされている。

«夜間の現況・課題»

- ・ 巴川に架かる橋梁では、港橋・八千代橋・柳橋などに、レトロな雰囲気の照明が設置されているほか、護岸上の散策路にも街路灯が整備されている。
- ・ 毎年7月に開催される灯ろうまつりでは、巴川に灯ろうが流れる象徴的な景観が創出される。

【八千代橋照明】 【柳橋照明】 【灯ろう祭り】



«観光面での夜間活用»

- ・ 中心市街地を通過し、河口部で日の出エリアと接続するため、「ドリームプラザ」からの誘導、「駅前銀座商店街」「中央商店街」「次郎長通り商店街」など地元商店街を含むまちあるきなどが期待できる。
- ・ 巴川沿いの水面や親水空間を背景に、景観照明の対象として橋梁が有効であると考えられる。
- ・ 平常時は生活に密着した住民の往来が多いエリアだが、「灯ろうまつり」「七夕まつり」「みなど祭り」等の催事時には、エリアに多くの来訪者が期待できる。

«評価»

- 周辺の商業の蓄積、アクセス面、文化的背景などから、清水区における夜間のまちあるきを促すエリアとしては適切。
- 日本平から直接的に河川は望めないが、左岸側の商工業系の建築物は高さがあるため、親水エリアの整備に呼応して、夜間景観整備に参画が得られれば、中長期的な遠景への寄与が期待できる。

«整備方向性»

- グランドデザインのリーディングプロジェクトでもある「巴川の活用」の一環として、親水エリアや周辺の歴史的まちなみ等を対象に、ある程度面的な広がりのある景観整備を検討する。
- 治水事業による河川改修等と足並みを揃え、手戻りのない整備を検討していく。

三保松原 神の道

«概要»

- 世界文化遺産の構成資産である三保松原と御穂神社の参道である神の道は、多くの観光客を引き寄せる観光スポットとなっている。

«夜間の現況・課題»

- 神の道ではフットライトによるライトアップがされているが、諸法令の規制により明度が抑えられている。
- 周辺の商業施設の多くが夜間営業を行わないため、夜間の観光消費の受け皿は不足している。

【神の道ライトアップ】



«観光面での夜間活用»

- 三保半島先端の三保真崎海岸は対岸の興津心頭を望む夜景スポットとして認知されており、三保半島全体を連携した夜間の受け入れ環境が構築されれば、夜間景観を活用した誘客に期待が持てる。
- 周辺で新たな観光事業者による開発の動き等もあるため、夜間消費の受け皿が拡大した場合には、夜間帯の観光振興の可能性が増すエリアとなる。

«評価»

- 三保半島は、日本平から望む場合に、灯りが少なく暗い部分となるため、照明整備による遠景への寄与も一定程度期待できるが、諸法令の規制が非常に厳しいエリアであるため、演出のための照明整備については十分な検討・協議が必要。
- 夜間の消費の受け皿が限定的であるため、現段階でのモデルケースとしての整備優先度は低い。

«整備方向性»

- 夜間の消費の受け皿として機能する民間事業者の動きを注視しながら、夜間の観光面での期待度が上昇し、諸法令の規制による整備の実現可能性が整理された場合には、整備を検討していく。

興津埠頭

«概要»

- ・オレンジ色のナトリウム等の灯りが印象的な、日本平からの夜景のイメージの主要な部分を構成するエリア。
- ・港湾工業エリアであり観光客の立入は難しいが、隣接する「旧興津宿・新興津地区」では、人工海浜や海釣り公園が整備される予定。

«夜間の現況・課題»

- ・港湾の夜景としてシンボリックな景観を創出している。
- ・海底探査船「ちきゅう」の寄港時には、船体の照明も夜景の一部を構成し、日本平などの視点場からも視認可能な存在感を放つ。

【三保真崎海岸から望む夜景】



«観光面での夜間活用»

- ・周辺部に立ち寄る想定がされるエリアではないため、遠景からの観賞対象として機能している。
- ・清水港全体での“工場夜景”的な売り出し方の中で、これまでにない視点から観賞するような開発がなされると、発展的な展開や商品化なども期待できるか。

«評価»

- 港湾施設としての稼働上、必要な機能としての照明であるため、演出用の照明を追加することは難しいと考えられる。
- 既存の照明機器を更新するタイミング等で、遠景を意識した更新を促すことができれば、将来的な遠景の夜景磨き上げに寄与する可能性はある。

«整備方向性»

- “モデルケース”としての整備対象としては不適。更新時の方向性を整理するなどして、中長期的な整備・維持を図ることとする。

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編

7. 整備工程

① 中近景での景観照明整備(ライトアップ等)

年度	R4	R5~R12						
対象評価								
実施検討								

② 視点場環境整備

年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
方針検討								
整備実施								

③ 遠景(日本平全体)夜景の整備

中長期的な取組として、本計画の期間に関わらず、市民や事業者の機運醸成の状況に応じて段階的に整備を促していく。

8. ソフト施策案と展開・連携のイメージ

魅力的な夜間景観を活用し、本市を訪れる観光客の滞在時間延長や宿泊促進に繋げるための、ソフト施策案を例示します。

■情報発信・ブランディング

«施策案»

- ・本市の夜景をPRしながら、ファンづくりを進めるため、SNS等を活用したフォトコンテストを開催。
- ・フォトコンテストの優秀作品をポスターやパンフレット化し、PRツールとして活用。

«展開・連携のイメージ»

- ・日中に多くの来訪者が訪れる施設等に夜景をPRするツールを展開。

■海外向け情報発信強化

«施策案»

- ・世界各地にある在外公館(大使館、総領事館等)でのレセプションにおいて、夜景ポスターの掲示やチラシの配架、夜景プロモーション動画の放映等による、静岡夜景のPRを実施し海外からの誘客につなげる。
- ・夜景HPを充実させるとともに、新規ページの英語対応により、海外向け情報発信にHPを活用する。

■日本平への集客・賑わい創出

«施策案»

- ・夜間に日本平山頂で開催されるイベントと連携し、日本平夜景の魅力をPRする。
- ・イベント開催時の来訪者のアクセス改善のため、市街地からシャトルバス等を運行する。
- ・イベントのない平時にも、夜景を観賞するバスツアーを催行する。

«展開・連携のイメージ»

- ・市内宿泊施設の協力を得て、シャトルバスやバスツアーの発着場所として活用し、宿泊プランとセットにして売り出すことで、宿泊客を誘引する。

■夜景ガイドの活用

«施策案»

- ・夜景ガイドを養成し、上記で運行するシャトルバスやバスツアーツアーの催行等で夜景ガイドを派遣・活用する。
- ・夜景ガイドによる日本平山頂での視点場や撮影スポットを案内するツアーを催行する。

«展開・連携のイメージ»

- ・市内宿泊事業者・バス・タクシー等の交通事業者と連携し、ガイドツアーや日本平山頂での夜景ガイドを商品として売り出すことで、宿泊客を誘引する。

静岡市夜間景観整備計画(案)
Ⅲ 日本平・清水エリア編

■ナイトタイムエコノミーの充実

«施策案»

- ・市内の大規模イベント等の主催者に対して、エクスカーションとして市内夜景や観光スポットを案内するツアーの実施を働きかける。
- ・主にインバウンド向けに、ナイトクロールなど、地元ガイド付きの飲み歩きツアー等と夜景をセットにした商品開発を検討する。

«展開・連携のイメージ»

- ・市内バル企画と連動し、夜景観賞やグルメツアーや楽しむ期間をイベント的に創出する。

9. 推進体制

先行して実施される観光誘客等のソフト事業においては、様々な民間主体との連携を前提に、必要に応じて体制化を行い、実行力を持って推進していきます。

照明整備等のハード事業についても、多主体との連携により観光面での高い効果が期待される場合には、実現のための協議・働きかけ等、積極的に連携を図るものとします。

<想定される連携先>

- ・するが企画観光局 ・商店街 ・清水ホテル旅館組合 ・静岡ボランティアガイド
- ・清水港みなと色彩計画推進協議会 ・港湾事業者 ・県(清水港湾管理局) ・国(清水港湾事務所) ほか